

オリパラ基本方針推進調査

(アフリカ諸国を相手国とするホストタウン横連携)

報告書

東武トップツアーズ株式会社

令和元年 12 月

<目次>

1. 調査の概要・目的	02
2. 実施概要	
① ホストタウン首長による公開座談会の開催	03
② 日本の伝統芸能とアフリカの伝統芸能を紹介するイベントの開催	12
③ アフリカ政府関係者との友好促進イベントの開催	18
④ スポーツを通じたホストタウンの取組の促進	26
⑤ ホストタウン自治体での現地交流	33
⑥ アフリカを相手国としたホストタウンの登録の促進イベントの開催	54
3. 成果のとりまとめ	
(1) 成果の分析・評価	60
① ホストタウンへの波及効果	
② 事業実施により達成できた成果	
③ 相手国への波及効果	
④ 東京大会を契機としたレガシー創造への寄与	
(2) 他ホストタウンへの普及・展開等	61
① 取組内容のモデル化	
② 事業実施体制・フロー・経費	
(3) 2020年以降の交流の継続性に向けた提案	61

1. 調査の概要・目的

令和元年7月2日現在、ホストタウンに414の地方自治体が登録され、それぞれ具体的な交流の取組が開始されている。このホストタウンの取組は、スポーツの振興、教育文化の向上、そして共生社会の実現などの様々な分野でレガシー創出につなげることを目的とし、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催の効果を、日本全国、各地方に行き渡らせ、地域が活性化することを目指している。

令和元年8月、「第7回アフリカ開発会議」（以下「TICAD7」という。）の開催にあたり、アフリカを相手国としているホストタウン及び登録を目指している自治体の活動を促進するため、TICAD7のサイドイベントとして各種プログラムを実施し交流を広く発信するとともに、参加する日本の自治体同士の連携強化を図ることにより、交流の促進や他地域への普及・展開に向けた改題等を分析し、ホストタウンの普及・展開方策について調査を行う。

2. 実施内容

①ホストタウン首長による公開座談会の開催

1 概 要

アフリカを相手国とするホストタウンの首長及び相手国政府関係者等による「ホストタウンとアフリカー2020年以降の交流の可能性を探る」をテーマに公開座談会を開催。

各ホストタウンの特徴的な取組や、継続的な交流に向けた課題等について共有及び意見交換を行い、アフリカを相手国とするホストタウン登録の拡大や、大会後のレガシーに繋がる効果的な取組について調査する。

2 日 時

令和元年8月29日（木）13:00～14:30

3 場 所

パシフィコ横浜アネックス

4 参加ホストタウン自治体/相手国

- ・岩手県八幡平市／ルワンダ共和国
- ・山形県長井市／タンザニア連合共和国
- ・福島県南相馬市／ジブチ共和国
- ・茨城県笠間市／エチオピア連邦民主共和国
- ・群馬県前橋市／南スーダン共和国
- ・鹿児島県三島村／ギニア共和国

5 参加者

約200名

6. 発表内容〔首長発表要旨〕

【岩手県八幡平市】

市で育成した「安代りんどう」をルワンダで切り花栽培したことをきっかけに交流が始まり、産業振興を共に目指すことになった。現地へ市職員や生産者を派遣することにより生産を拡大させ、現在は欧州の花市場に出荷できるまで成功している。また自転車・陸上・ビーチバレー選手団の事前合宿を受け入れ、農業分野以外にも幅広く交流を深めていくこととしている。

【山形県長井市】

青年海外協力隊としてタンザニアへ赴任した長井市民の青年が現地のタンザニア人と結婚し、その後、長井市で暮らし始めたことをきっかけとして交流が開始された。駐日タンザニア大使、市長の相互訪問、中学生を含む市民団の派遣及び市のフルマラソンにタンザニア選手が参加するなど交流を重ねてきた。ホストタウン登録を契機に更なる交流を推進し、世界を相手に活躍できる若い世代の人材育成を目指す。

【福島県南相馬市】

東日本大震災時に市へ駐日ジブチ大使がお見舞い訪問したことや、浄財を寄せられたことをきっかけにホストタウンへ登録となった。これまでジブチへ空手指導者の派遣や、ジブチの子どもたちを相馬野馬追に招待するなどの交流がなされてきた。今後は東京大会後に選手団を招待するとともに、引き続き相互交流を通じて友好と連帯を深め、国際感覚豊かな人材を育成を目指す。

【茨城県笠間市】

市在住のエチオピア人陶芸家を通じ、市長が駐日エチオピア大使館レセプションに参加したことをきっかけとして交流が始まる。これまでエチオピアへの消防車寄付、同国大使の市内ハーフマラソン参加などの交流を重ね、ホストタウン登録となった。陸上競技を通じて中学生を中心とした相互交流や、オリンピック出場経験を持つエチオピア人スポーツ国際交流員を雇用することにより国際大会で活躍できる選手を育成するとともに、スポーツイベントの拡充及び競技スポーツの推進により市民の健康増進を目指す。

【群馬県前橋市】

市は、戦争により市街地を焼失し、大きな損害を受けたが、1964年東京大会によって復興の希望が生まれた。そのことから、JICAの掲げる「スポーツを通じた平和促進」に賛同し、紛争等で情勢不安定な南スーダン選手の合宿援助及び交流を推進することにより、市民に平和の尊さを再認識してもらいたいとの考えからホストタウンに登録した。南スーダンのオリンピック選手団の受入費用について、行政主導ではなく市民の善意による寄付で一部を支弁するとともに、相互交流を通じて市民が平和を感じる機会を得ることをレガシーとして考えている。

【鹿児島県三島村】

ギニアのジャンベ奏者が西アフリカ発祥の打楽器ジャンベを教えに来たことがきっかけとなり、ギニアとの交流が始まった、これまでジャンベフェスティバルや、ワークショップを毎年開催するなど、ジャンベを通じた交流を深め、平成16年にはアジア初のジャンベスクール「みしまジャンベスクール」が開校した。ホストタウン登録を契機として、ギニアのスポーツ選手との交流も含め、幅広い内容の交流が永続することを目指す。

7. 取組内容

[八幡平市]

アフリカにリンドウを咲かせよう

岩手県八幡平市

八幡平市

ルワンダ共和国

アフリカにリンドウを咲かせよう

2018年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

[長井市]

長井市がタンザニアのホストタウンに!

Nagai City is Tanzania's Host Town!

2019年10月20日開催の長井マラソンにタンザニア選手団を迎え、東京大会の選手団員（五輪委員会委員）の来日に合わせて長井市を訪問し、大会参加者への具体的な支援を促しています。また、練習会など市内イベントの開催や、タンザニアへの市民訪問の促進など2020年に向けた市民一人一人となった機運の醸成を進めています。

2019年10月20日開催の長井マラソンにタンザニア選手団を迎え、東京大会の選手団員（五輪委員会委員）の来日に合わせて長井市を訪問し、大会参加者への具体的な支援を促しています。また、練習会など市内イベントの開催や、タンザニアへの市民訪問の促進など2020年に向けた市民一人一人となった機運の醸成を進めています。

[南相馬市]

新しい空りと寂しさを乗り越え、国際交流の力で

Minami-soma City

Republic of Djibouti

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

[笠間市]

長距離王国エチオピアとの交流

KASAMA CITY, Ibaraki Prefecture

Federal Democratic Republic of ETHIOPIA

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

[前橋市]

前橋市の南スーダン共和国との取組

Maebashi City

South Sudan

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

[三島村]

トジャンベでつなぐギニア共和国との交流

Sanjima Village

Republic of Guinea

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

12月：市内リンドウ生花まつり開催

2019年度取組の振り返り

7月4日：岩手県庁でリンドウの愛着を深めよう

11月：ルワンダの代表選手が来日

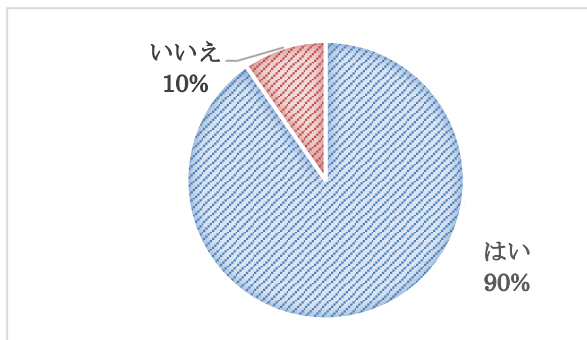
12月：市内リンドウ生花まつり開催

8. 記録写真

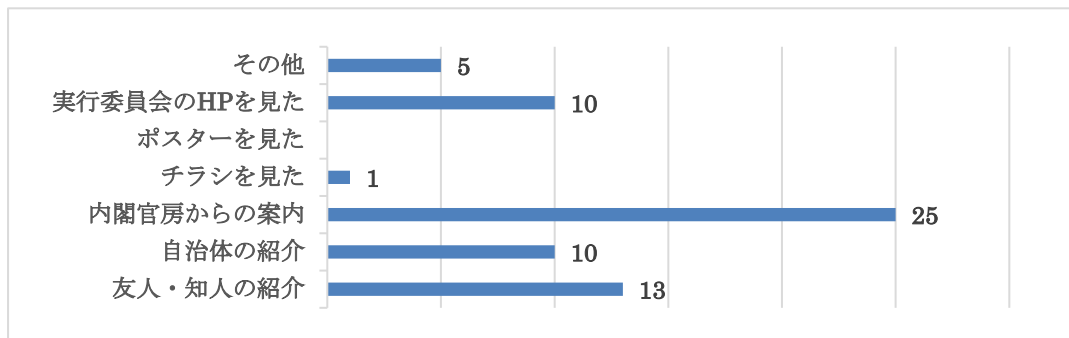


9. アンケート結果

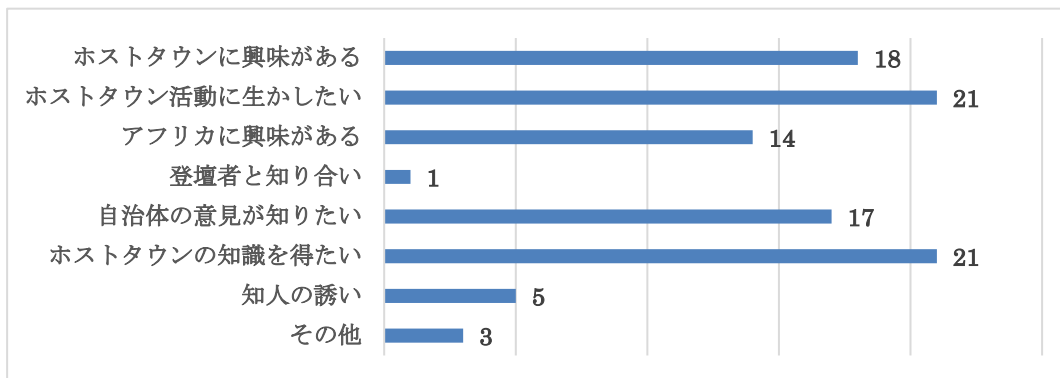
Q1. ホストタウンの取組をご存じでしたか？



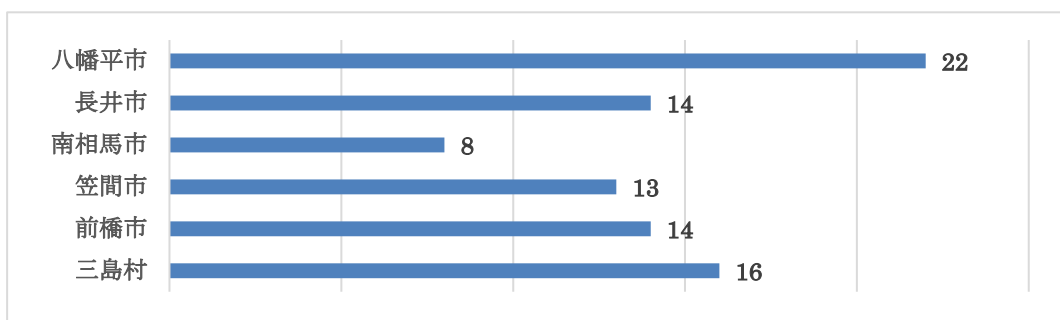
Q2. 本座談会の開催はどこで知りましたか。(複数回答)



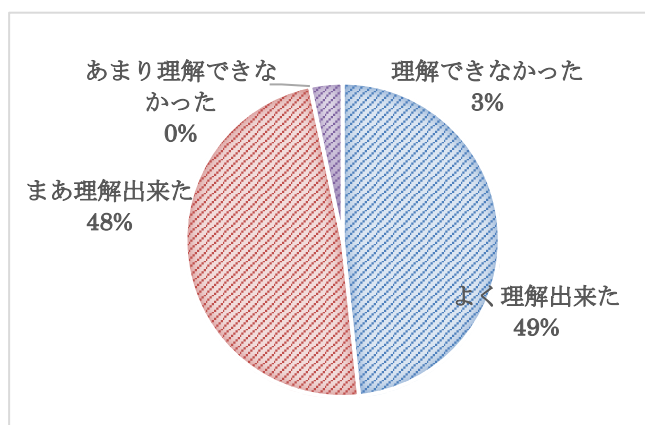
Q3. 参加した理由は何ですか (複数回答)



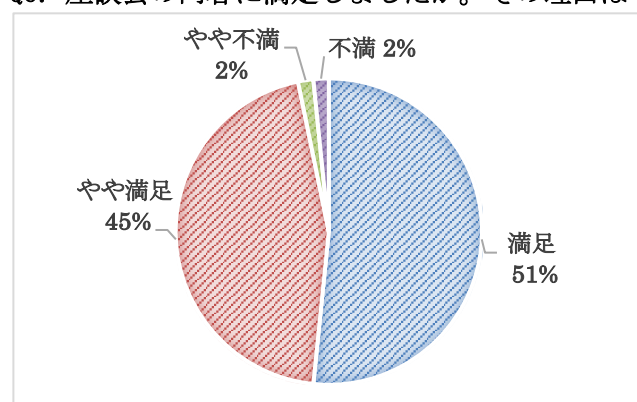
Q4. 最も有益であった発表はどの自治体ですか。(複数回答)



Q5. ホストタウンの事例報告をうけて、ホストタウンについて理解ができましたか。



Q6. 座談会の内容に満足しましたか。その理由は？



【満足】

- ・自治体ごとの様々な取組について理解できた、参考になった 【5票】
- ・首長同士の質疑が良かった
- ・活発に活動している自治体の取組内容や、思いを直接聞いて感銘を受けた
- ・東京だけでなく地方でのオリンピック、パラリンピックの効果を感じた

【やや満足】

- ・様々な取組を知る事が出来た 【4票】
- ・一つ一つの取組をもう少し詳しく聞きたかった
- ・自治体同士の意見交換が見たかった 【2票】
- ・ホストタウン受け入れ地区のことが分かった
- ・首長が参加していたので良かった

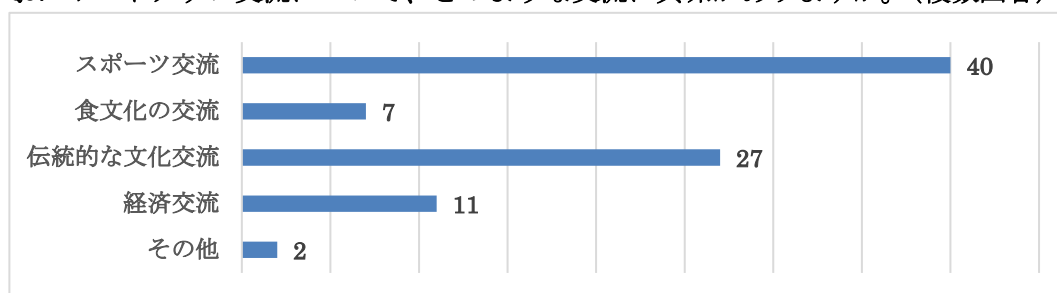
【やや不満】

- ・参加自治体ではなく、主催者側によるアフリカの参加国情報が欲しかった（例えば地図）

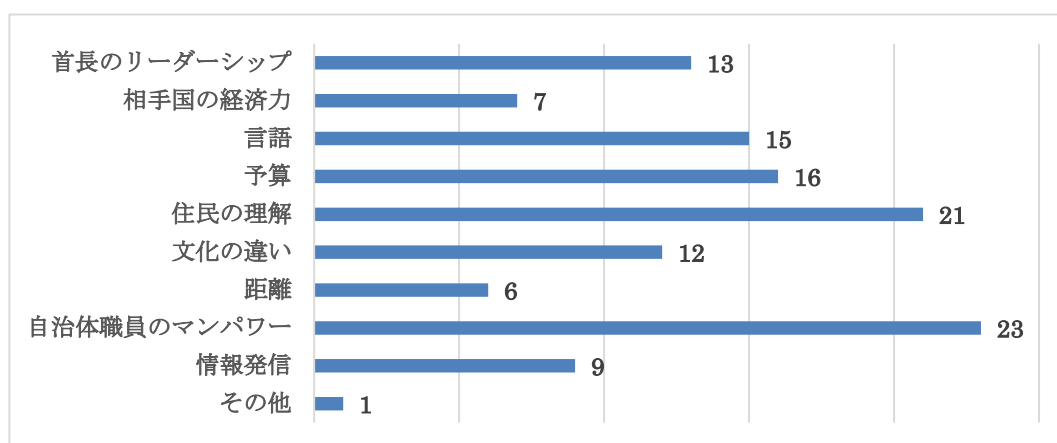
Q7. 各自治体の事例報告で、興味を持ったのはどのような点ですか。（自由回答）

- ・経済、文化などきっかけが幅広い 【3票】
- ・今後への想いを強く持たれていた点 【3票】
- ・音楽を通じた交流はやはり強いと感じた。（食と音楽）
- ・どの自治体も東京大会以降の繋がりを意識していたこと 【3票】
- ・スポーツでの国際交流 【3票】
- ・交流の歴史とエピソード
- ・アフリカ人との人的交流、繋がりが出発点にある所に本気度と持続性が強いと思った 【2票】
- ・前橋市の活動資金のクラウドファンディング
- ・青少年を対象にした交流 【5票】
- ・オリパラ後の各国との関わりについて
- ・各自治体のイベント、特色を生かした息の長い交流
- ・駅伝大会にアフリカの中学生を招待して交流している事例
- ・小さな自治体が熱心に活動していること 【2票】
- ・八幡平市のリンドウの話 【3票】

Q8. ホストタウン交流について、どのような交流に興味がありますか。（複数回答）



Q9. ホストタウン交流に当たり、課題と考えられることは何ですか。（複数回答）



Q10. 本日の座談会に関してご意見・ご感想など自由にご記入下さい。(自由回答)

- ・大変有意義な機会をいただき、ありがとうございました。また参加したい。 【6票】
- ・音楽を通じた交流を生かしている三島村は興味深かった。ギニアのみでなく世界に通じると感じた。
- ・普段あまり耳にしない交流事例でとても素晴らしい内容だった。
- ・他のホストタウンの国のイベントにも参加したい。
- ・様々なアフリカとの交流が知れて、面白かった。
- ・貴重な体験をありがとうございました。
- ・2020 で終わらせず今後に期待します。特に日本側の研究者の育成について。
- ・首長の話はいいことばかりで現場の話ではなく、参考にならない。どんな苦労があったか、市民住民との関わりなどが聞きたい。
- ・色々な面で若者が活躍できる機会が生まれればと期待する。
- ・ホストタウンの市町村として、ホストタウンのみに人員を割ける自治体はそれほど多くないと感じる。そのため上級機関の人的サポートが重要になると考える。
- ・若者のスポーツ交流が良いと思った。
- ・経済界協議会としては、出来る範囲で今後も活動を継続していきます。
- ・地方の自治体がこのような交流を通して元気になっていけば良いと思います。
- ・事後報告会もあったら良い。
- ・ディスカッションの時間を長くしてほしい。

10. アンケート結果を受けて

- ・自治体関係者の参加が多かったためか、「ホストタウン事業について知っている」という回答が Q1 に多くみられることから、関心の高さが伺える。
- ・Q3 にみられるように、ホストタウンに関して、「興味がある」、「活動に生かしたい」、「自治体の意見が知りたい」、「知識を得たい」という意見が多い。今後の交流事業の活発化に繋がると考えられる。
- ・Q5 や Q6 のとおり、ホストタウン事業について理解が深まり、それぞれの発表に「だいたい満足」という結果を得た。発表した自治体のホストタウン事業への積極的な関与や熱意から、主に自治体関係者への大きなアピールとなり、さまざまな各国との繋がりに対する興味が高まったと考えられる。
- ・Q8 の回答からは、「スポーツ交流」、「伝統的な文化交流」に対してチェックが多いことから、わかりやすいイベントによる交流に対する関心が高い。交流の最初の一步としてはやりやすいと考えられる。
- ・Q9 のホストタウン交流の課題について、「首長のリーダーシップ」、「相手国の経済力」、「言語」、「予算」、「住民の理解」、「文化の違い」、「距離」、「自治体職員のマンパワー」、「情報発信」とまんべんなく回答が寄せられているが、20 票を超えるものとして、「住民の理解」と

「自治体職員のマンパワー」という意見が寄せられた。座談会に出席したのは自治体職員が多くを占めていることから、現場からの生の声と考えるのが適当である。Q8における回答の「経済交流」についてはマンパワー不足の解消も含め、産業振興に関する部署も携わることが必要である。

②日本の伝統芸能とアフリカの伝統を紹介するイベントの開催

1 概 要

自治体及び相手国・地域双方の伝統芸能を紹介するとともに、一緒になって演奏して文化交流を行うことは、ホストタウン交流として相互理解の促進やホストタウンの意義・素晴らしさを発信する観点から効果的である。そこで、これまでのホストタウン交流の成果を周知し、ホストタウン交流の可能性について多くの理解を得るために、アフリカの音楽およびアフリカのホストタウン、ホストタウン登録を目指す自治体の伝統的な踊り・音楽を融合し、TICAD 7 会場周辺を含む横浜市内 5 ヶ所にてイベントを開催。

来場者に対してこの取組についての理解度や、アフリカを相手国とするホストタウンに限らず全てのホストタウンが相手国との交流を行う上での効果、そして相手国からの招待に係る課題や、持続可能な交流の在り方を検討し、今後のアフリカホストタウンにおける効果的な交流の在り方を調査する。

2. 実施日時、参加団体

日 時：8月27日（火）

会 場：クイーンズサークル、象の鼻公園

参加団体：山形県長井市、宮崎県日向市、鹿児島県三島村、沖縄県北中城村、沖縄県中城村、トーゴ、ギニア、チュニジア、ベナン

日 時：8月28日（水）

会 場：クイーンズサークル、クイーンズパーク、ドッグヤードガーデン、コスモワールド

参加団体：山形県長井市、宮崎県日向市、鹿児島県三島村、沖縄県北中城村、沖縄県中城村、トーゴ、ギニア、チュニジア、ベナン

日 時：8月29日（木）

会 場：クイーンズサークル、クイーンズパーク、コスモワールド

参加団体：山形県長井市、宮崎県日向市、鹿児島県三島村、沖縄県北中城村、沖縄県中城村、一期 JAM、トーゴ、ギニア、チュニジア、ベナン

日 時：8月30日（金）

会 場：クイーンズサークル

参加団体：茨城県笠間市、埼玉県幸手市、一期 JAM、ベナン

3. 記録写真

クイーンズスクエア 27 日



クイーンズスクエア 28 日



クイーンズスクエア 29 日



Bon for Africa



コスモワールド



PV 撮影

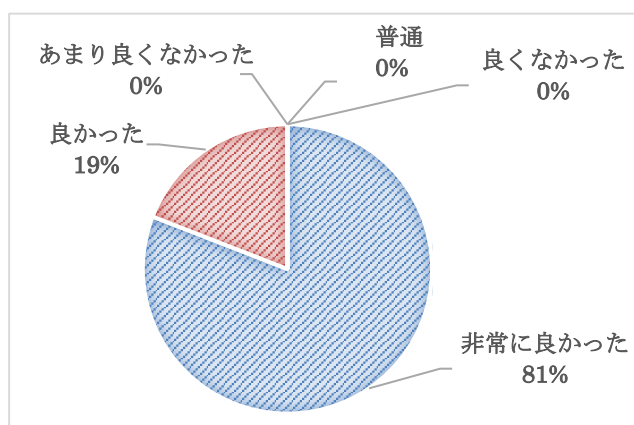


クイーンズパーク

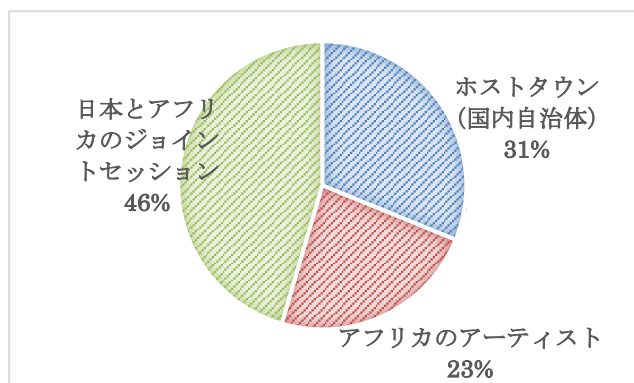


4. アンケート結果

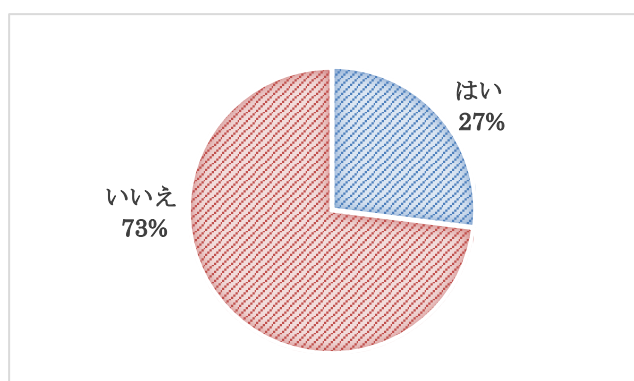
Q1. ご覧いただいたパフォーマンスはいかがでしたか？



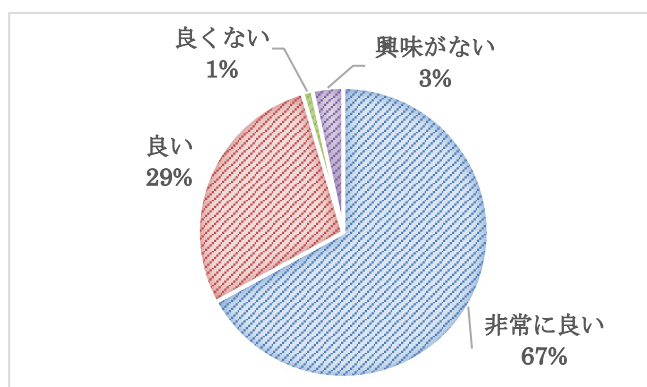
Q2. ご覧いただいたパフォーマンスで一番良かったのは？



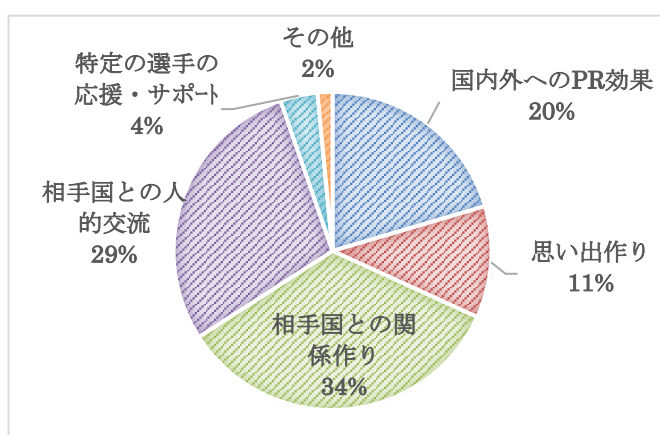
Q3. ホストタウンの取組をご存じでしたか？



Q4. あなたがお住まいの自治体がホストタウンになる（なっている）としたら？



Q5. 非常によい/よいと回答された場合、その理由は？

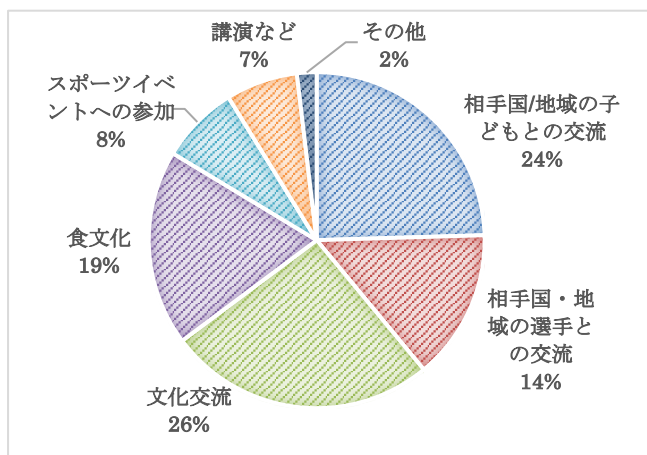


その他の内容：自分の住む地域の活性化につながるから

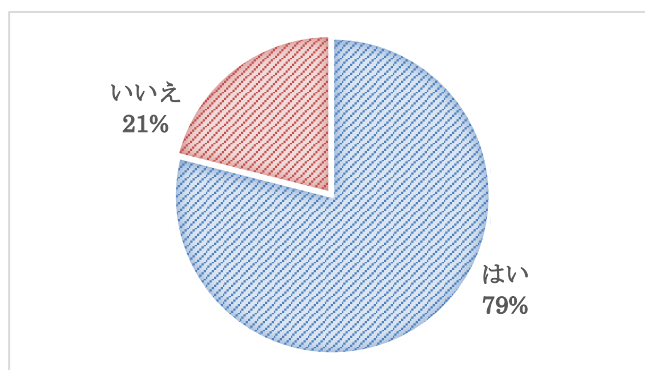
Q6. よくない/興味がないと回答された理由（自由回答）

ホストタウンについて分からないため（興味がない）

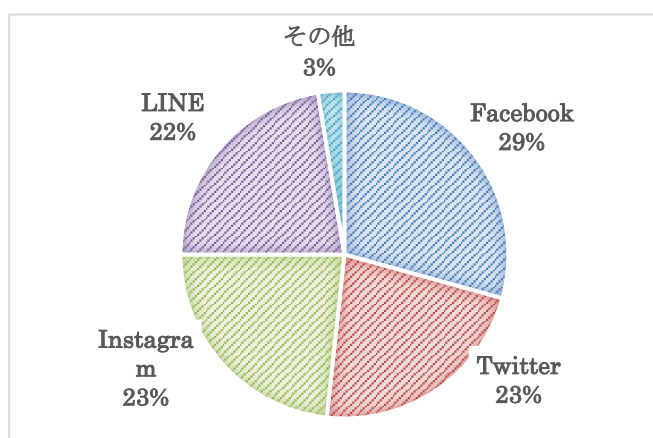
Q7. ホストタウンの交流事業で興味があるものは？



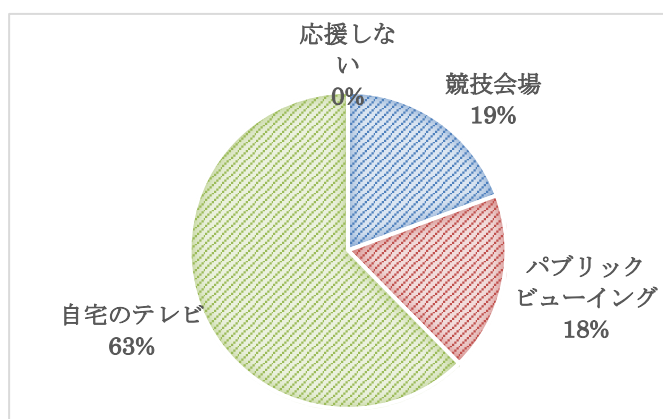
Q8. ホストタウンの活動に参加した場合、SNS で発信したいと思いますか？



Q9. 情報発信・情報収集に利用している SNS は？



Q10. ホストタウンの相手国・地域を大会の際にどのように応援しますか？



Q11. ホストタウンの取組についてご意見があればお聞かせください。

- ・大変良かった。面白い。
- ・初めて聞いた言葉なのでイメージが難しいが面白かった。
- ・横浜市民だが、TV を通じて情報を知ったのでPR の仕方については検討の余地があると思う。
- ・異文化に触れ、興味深く良いと思った。増加する高齢者向けにも考えてほしい。
- ・今回初めて見たが、様々な場所でもっと見たい。
- ・繋がることに意味を感じた。
- ・とても素晴らしく感動的なステージだった。
- ・今後も継続してほしい。
- ・自分の住む町もブラジルのホストタウンになっているので、もっと沢山交流出来たらよい。
- ・ホストタウンの取組を応援しています。
- ・頑張してほしい。
- ・良いものを見せていただき、厄を払ってもらった気がした。
- ・初めて見たが素晴らしかった。またチャンスがあれば見たい。
- ・もっと PR すべき。
- ・ギニアと日本を繋ぐ活動をしている為、今回の日本の三島村の取組が素晴らしいと思った。
- ・パフォーマンスがとても素敵だった。

[外国人からのコメント]

- ・大変興味深い取組だと思う。会場の皆さんと一つになれたように思う。
- ・我々を受け入れてもらえて嬉しかった。本当にありがとうございました。
- ・2つの違う大陸間の相互理解をもたらすものでとても良かった。

5. アンケート結果を受けて

- ・観客は通りすがりの日本人がほとんどを占め、一部は TICAD 7 の出席者と思われる外国人であった。パフォーマンスについては概ね好評であった一方、ホストタウンの取組については「知らなかった」という回答が全体の 7 割を占め、中には「ホストタウン」という名称自体を知らないとの回答もあり、未だ一般の市民への周知が行き渡っていないと思われる。
 - ・パフォーマンスは、各自治体やアフリカ各国単体のものより、双方の音楽や踊りを融合させたジョイントセッションが好評であり、アンケートには「繋がることに意味を感じた」「異文化に触れ興味を持った」「もっと異文化交流を」といった回答があるなど、ホストタウンの活動に対する理解促進という意味で一定の効果があつたと思われる。
- また、音楽や踊りを通じた異文化交流は単純で分かりやすく、性別や年齢を問わず比較的容易に参加が可能であるため、持続可能な交流の手段として有効である。

③アフリカ政府関係者との友好促進イベントの開催

1 概 要

TICAD 7に参加するために来日している各国政府関係者及びホストタウン（ホストタウン登録を目指す自治体を含む。）の交流を深めるため、各国政府関係者を招待し、交流イベントを実施。5つのホストタウン登録自治体の中学生を招待し、①各ホストタウンのこれまでの取組、②地元に来る選手との交流、③2020年以降行いたい交流等について発表し、その内容について、参加中学生同士で意見交換を行い、理解度や効果、課題を測り、持続可能な交流の在り方について調査する。

2 開催日時

令和元年 8 月 30 日（金）10:00～12:00

3 場所

ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル「ラ ヴェラ」

4 参加ホストタウン自治体/相手国

- ・岩手県八幡平市／ルワンダ共和国
- ・山形県長井市／タンザニア連合共和国
- ・福島県南相馬市／ジブチ共和国
- ・茨城県笠間市／エチオピア連邦民主共和国
- ・鹿児島県三島村／ギニア共和国
- ・岩手県二戸市／ガボン共和国
- ・大阪府守口市／ガンビア共和国
- ・沖縄県北中城村／サントメ・プリンシペ民主共和国
- ・沖縄県中城村／カーボベルデ共和国

5. 発表要旨

[既に交流を行っている自治体]

【岩手県八幡平市】

市による農業協力によりルワンダにて栽培されている「安代リンドウ」を紹介。ルワンダの選手団と安代中学校生徒との交流会の様子を中心に発表し、東京大会に向けた選手団への応援メッセージを発表。

【山形県長井市】

中学生によるタンザニア訪問の中で実施した野球交流や、タンザニアで働く日本人の農業指導や道路工事等についての体験談を報告。ホストタウン交流はスポーツだけでなく、文化などの多様な交流を実施することの重要性を指摘。

【福島県南相馬市】

東日本大震災時に、市に寄せられたジブチからの浄財やお見舞いへの感謝の言葉から始まり、野球交流の様子や、ジブチの子どもたちを相馬野馬追に招待した様子を DVD 動画で紹介。東京大会に向けて、子ども達から選手団への応援メッセージを披露。

【茨城県笠間市】

エチオピアとの陸上競技交流や、金メダリストからの指導に刺激を受けたことなどを発表。今年 12 月にはエチオピアの訪問を計画しており、陸上競技強豪国の練習体験や、同年代の選手・生徒との交流を予定している。

【鹿児島県三島村】

離島ならではの村での遠隔操作による学校の授業の様子、ユネスコ無形文化遺産・硫黄島の「メンドン」など伝統文化を紹介。また、鹿児島音楽コンクールで 15 年連続金賞を受けたジャンベグループの活動を紹介するとともに、最後に東京大会の成功を祈念。

[これから交流を行う自治体]

【岩手県二戸市】

東京大会後に様々な交流を予定。昨年のガボンへの派遣生は「国や人種、言語が違ってても、相手を尊重し理解しようとする心があれば、交流ができる。」と発表。

【大阪府守口市】

運動部での活動や、音楽などの部活動も盛んなことを紹介。東京大会ではガンビアを応援し、市で交流の際は、スポーツ、文化などの様々な交流活動を予定。最後に子どもたちによる「さくらさくら」「うりじんキューナ」の歌を披露。

【沖縄県北中城村】

東京大会ではサントメ・プリンシペを応援し、大会後は伝統芸能でおもてなしを予定。子どもたちや、お年寄りとの交流も計画するとともに、農業などの共通点を共有し、双方が発展していくことを目標とする。

【沖縄県中城村】

世界遺産に登録された「中城城跡」及び少人数制の学校の授業、新聞社主催の調査で全国 2 位となった「子育てしやすいまち」について紹介。東京大会ではカーボベルデを応援し、大会後には子どもたちも含め、様々な交流を予定。

[NPC サントメプリンシペ会長による発表]

サントメ・プリンシペの地域紹介。今後の交流について期待。

6. 記録写真

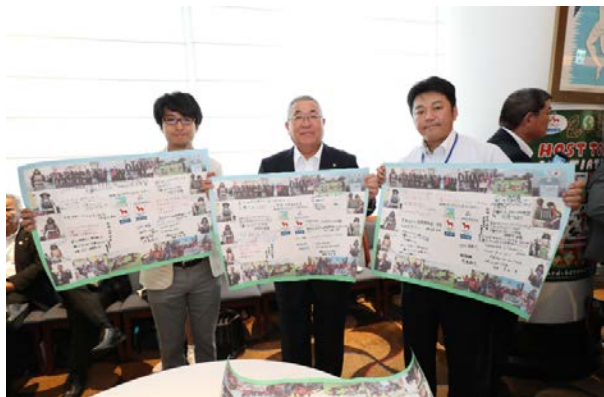
全体写真



中城村・カーボベルデ



南相馬市・ジブチ



長井市・タンザニア



笠間市・エチオピア



守口市・ガンビア



三島村・ギニア



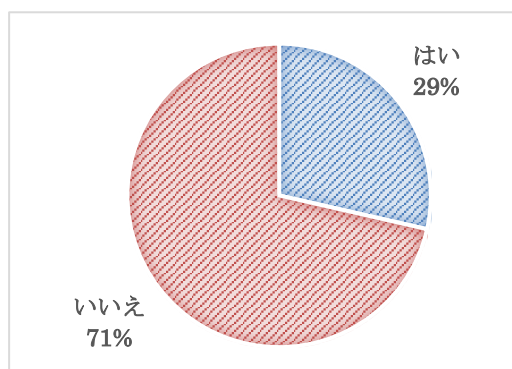
二戸市・ガボン



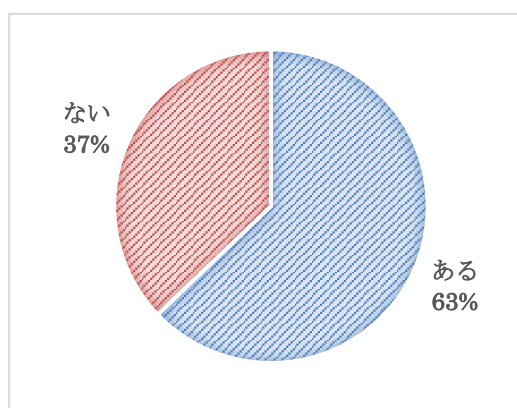


7. アンケート結果

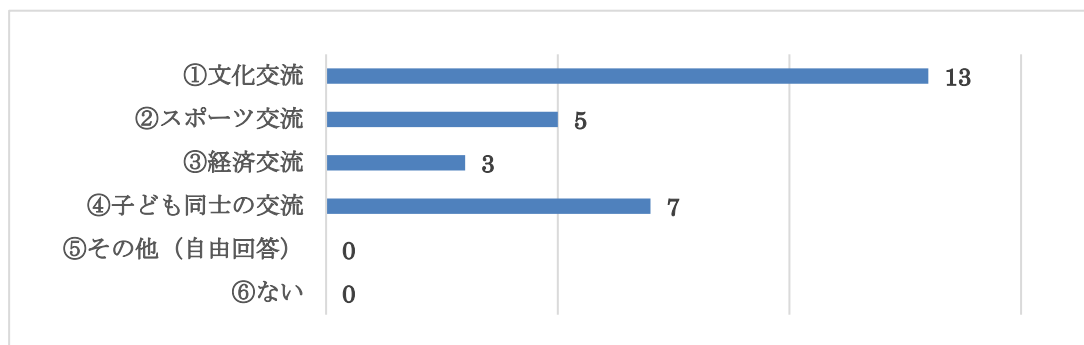
Q1. 今まで他のホストタウンの取組をご存知でしたか？



Q2. これまでにホストタウンの相手国・地域の人と交流したことがありますか。



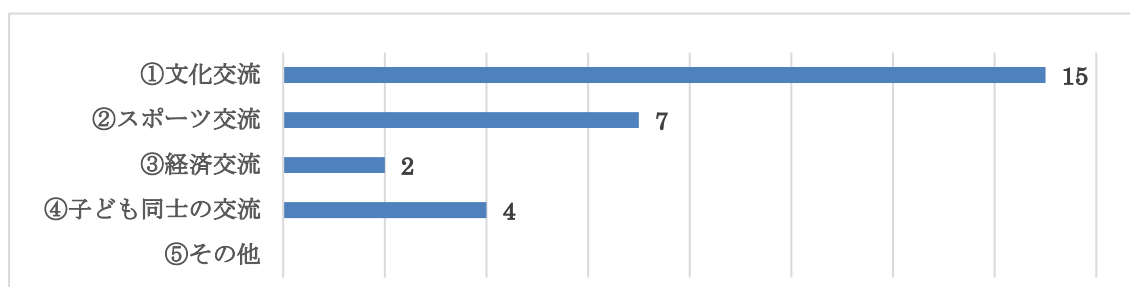
Q3. Q2 で「ある」と回答した方に伺います。これまでで、特に楽しかった、有意義だったプログラムは下記のどれですか？（複数回答）



Q4. Q3 で①から⑤に○を付けた方、具体的にどのような交流プログラムをしましたか？（自由回答）

- ・現地の中学生との野球交流、小中学校訪問 【2票】
- ・ジャンベの発表で見ている人にジャンベの面白さや、楽しさを伝えられた
- ・ジャンベ交流、観光 【10票】
- ・ルワンダの家庭料理が給食として出たこと
- ・折り鶴を作った 【2票】
- ・市での祭りへの参加
- ・リンドウ（花）の栽培を通じた技術交流
- ・ボール遊びなど

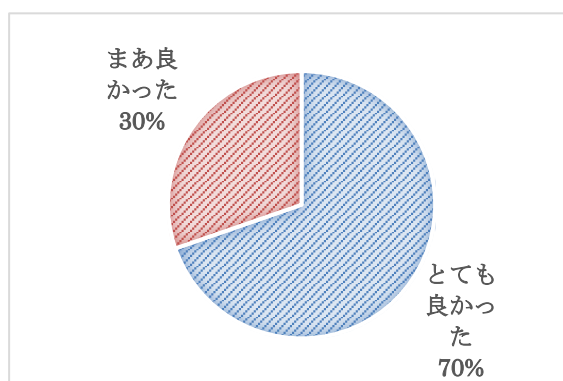
Q5. Q2 でこれまでにホストタウンの相手国・地域の人と交流したことが「ない」に○をつけた方、どのような交流を通じて、交流を深めていきたいと思いますか。（複数回答）



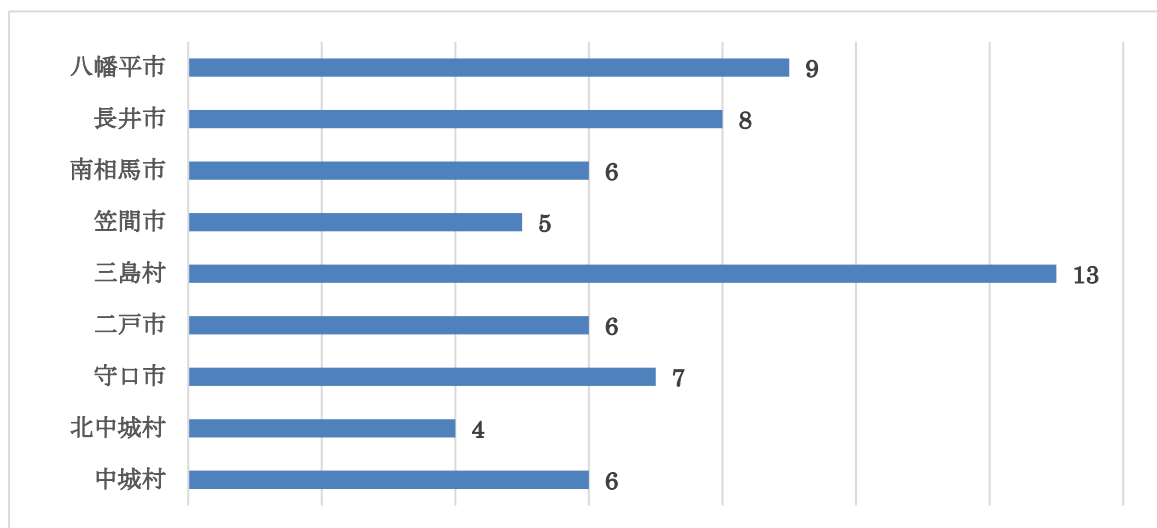
Q6. 具体的にどのような交流プログラムを行いたいですか？

- ・日本の中学校がアフリカで有名ではないスポーツを教える
- ・お互いの文化（スポーツ）を紹介し、実際に体験してもらう 【4票】
- ・相手国から訪問団を送ってもらう
- ・子ども同士で話したり、遊んだりするプログラムがあれば交流が深まると思う
- ・食のプログラム
- ・ジャンベ交流
- ・交流する国の言葉を学びながら日本語を教える

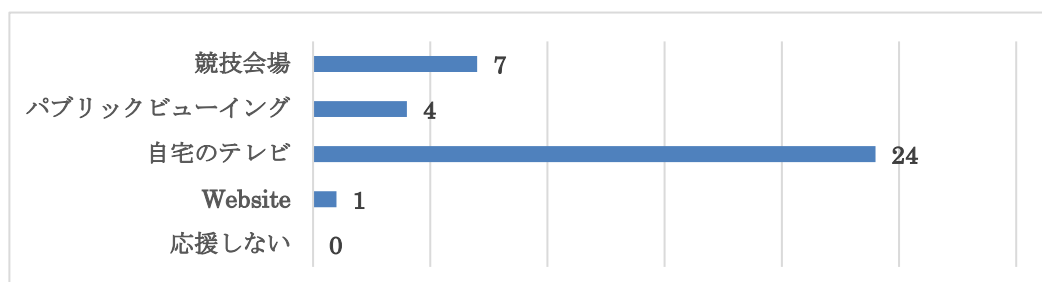
Q7. 今回の交流会に参加していかがでしたか？



Q8. どの自治体の発表が良かったですか？（複数回答）



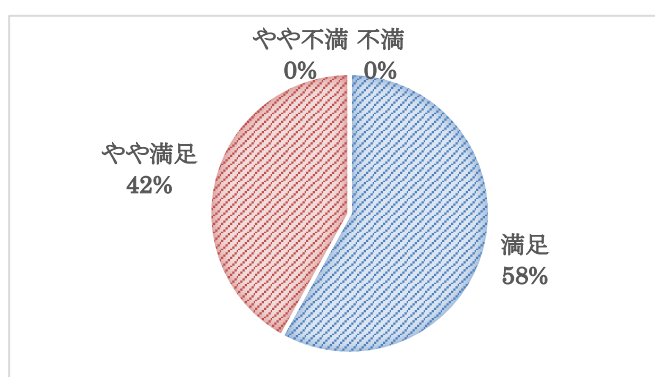
Q9. ホストタウンの相手をどこで応援したいと思いますか？（複数回答）



Q10. Q9で「競技場」と回答した方、問題点や懸念事項などがあれば具体的にご記載ください。

- ・チケットがとれない

Q11. 今回の交流会の満足度



Q12. ホストタウン交流に関してご意見・ご感想など自由にご記入ください。

- ・他の国のホストタウンがどんな活動をしているのか、また、どのような活動がしたいか聞くことができて勉強になった。
- ・三島村の文化をほかの人に伝え、少しでも楽しんでもらえたことが嬉しかった。またギニアの人たちとも仲良くなれて友達が増えた。
- ・日本と違った文化を知り、逆に日本文化を伝えるということが面白く、相手と仲良くなれた。
- ・ホストタウンの取組を通し、改めて他国と交流することや、文化に触れることの大切さを感じることができた。
- ・他の地域のホストタウンの取組などが知れて良かった。
- ・とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・異文化を認め合って一緒に楽しむ大切さを学んだ。「レガシー」という考え方が素晴らしい。
- ・生徒さんが楽しそうに堂々としていて驚いた。応援しています。
- ・色々な国を知れて良かった。
- ・これからもこのような取組を続けてほしい。
- ・言葉は通じないけれど、ジェスチャーを使って交流ができた。
- ・他の国の子と交流できるのは初めてだったので、嬉しかった。

8. アンケート結果を受けて

「他のホストタウン自治体がどのような活動を行っているのか知ることが出来て良かった」、「参考になった」という意見が多かった。他のホストタウン自治体の取組を参考にし、今後のホストタウン事業のプログラム策定に活用してゆく事と思われる。

また、参加した子どもたちからは「食、音楽、スポーツ」の体験型交流を希望する声が多く、言葉の壁はあるものの、これまでの交流を通じて心・気持ちを通わせることができると実感できたものとする。

課題としては、ホストタウンの中で先進的な取組等に関する情報が共有されていないところがあるため、効果的・先進的な取組を広く周知していく仕組みづくりが必要である。

④スポーツ交流を通じたホストタウンの取組の促進

1 概 要

ホストタウンの交流の一環として、相手国とホストタウンのスポーツを通じた交流は、言語を越えた友好を深めるための取組として効果があるため、ホストタウンの交流のモデルとなる。アフリカをはじめとした途上国での野球の普及を容易にするため簡易版として開発された「ベースボール5」の体験会及び競技大会を行い、スポーツ交流の持つ効果が今後ホストタウンの交流にどのような効果を持つのか調査する。

2 日 時

令和元年 8 月 28 日（水） 13:30～16:20

3 場 所

JICA 横浜体育館

4. 参加者

- ・ボツワナ共和国ソフトボール協会チーム 5 名
- ・千葉県佐倉市（ボツワナ共和国のホストタウン）野球少年団 6 名
- ・神奈川県横浜市立茅ヶ崎小学校野球少年団 3 名
- ・神奈川県横浜市立青葉台中学校野球少年団 12 名
- ・神奈川県横浜市立鶴見中学校生徒 1 名
- ・JICA 留学生 1 名
- ・元 JICA 隊員 1 名

合計 29 名

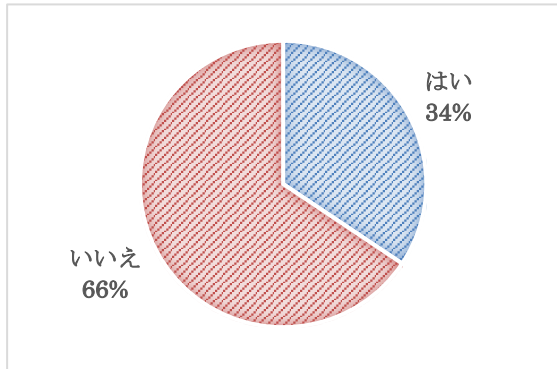
※ 在京のボツワナ大使館の協力で、TICAD7 参加中のボツワナ ケネヴェント産業大臣にもご参加いただいた。

5 記録写真

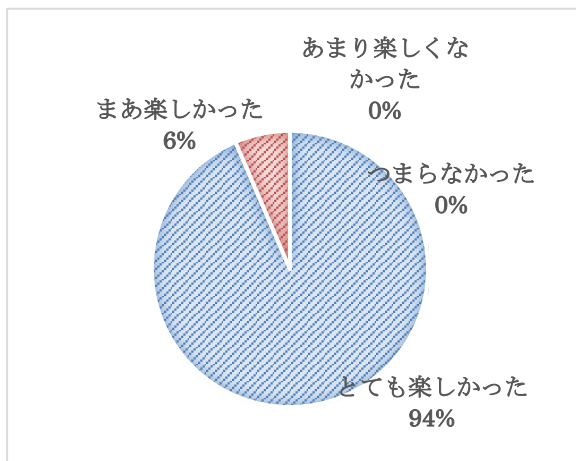


6. アンケート結果

Q1. ベースボール5という競技はご存知でしたか？



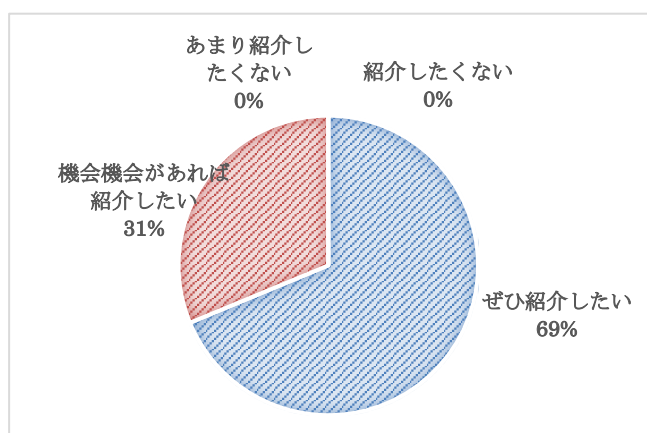
Q2. ベースボール5を体験して、いかがでしたか？



感想をお聞かせください

- ・仲間と協力することができて楽しかった。 【6票】
- ・自分のチームだけでなく、相手チームなどいろいろな人と交流ができた。 【2票】
- ・楽しく交流することができた。 【7票】
- ・外国の方と交流できて良かった。
- ・ベースボール5の魅力を感じた。 【2票】
- ・外国人と交流することがなかったので、自分の良い経験になった。 【2票】
- ・誰でもすぐに参加できるのが良い。 【4票】
- ・初体験でもプレーでき、外国の選手や小中学生、大人と混合のチームも良かった。
- ・小さいスペースではあるが、とても走るので運動になった。

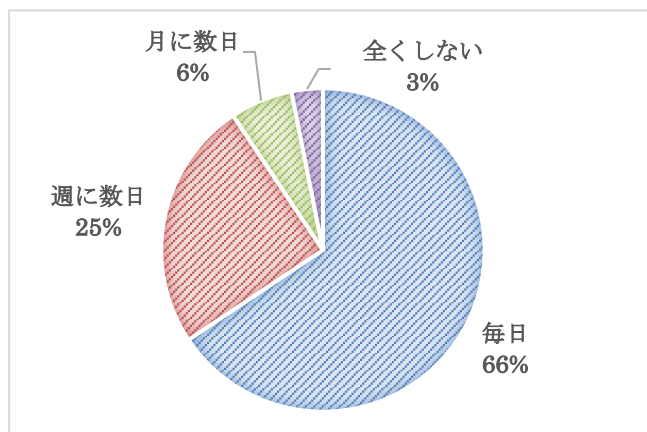
Q3. ベースボール5を友人・知人・同僚・家族などに紹介したいと思いますか？



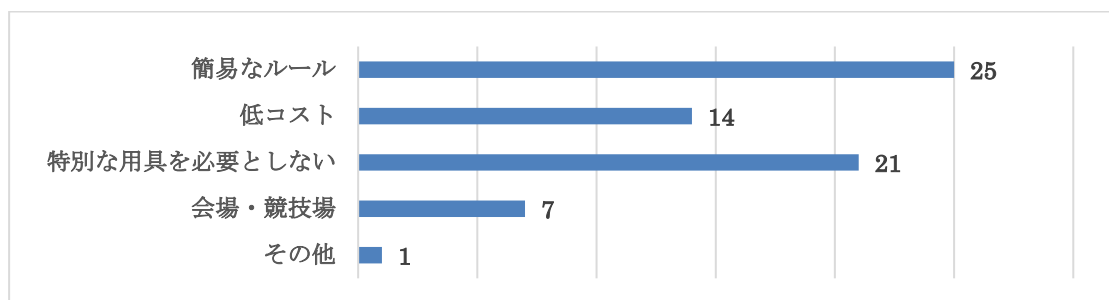
その理由は？

- ・色々な人とプレイしたいので紹介したいと思う。 【3票】
- ・とても楽しかった。 【12票】
- ・友人と一緒に楽しみたい。 【2票】
- ・気軽に参加できる。 【4票】
- ・面白いし、賢くなれる。技術も必要だが、頭脳プレーでもある。 【2票】
- ・お金を使わなくてもできる。
- ・広めて私も将来やりたいと思う。学校の部活にも入れてほしい。
- ・昼休みなどでもできる。

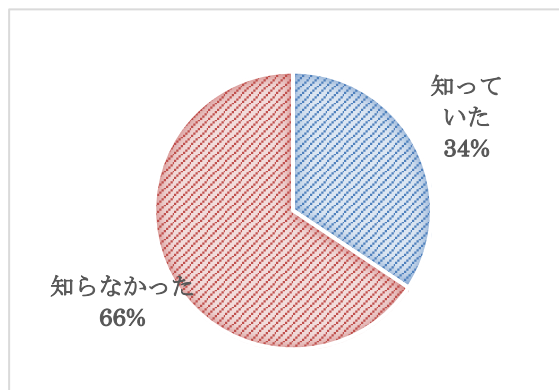
Q4. スポーツをする頻度はどれくらいですか？



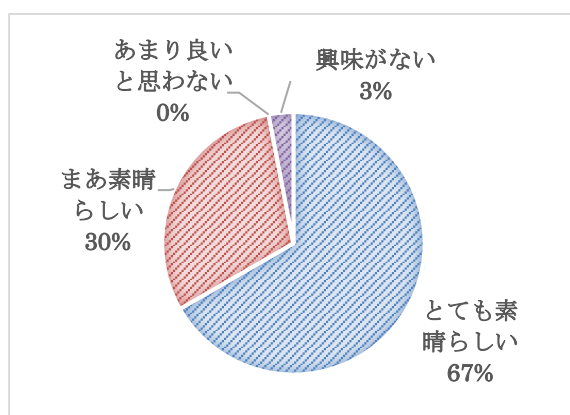
Q5. アフリカの途上国とのスポーツによる交流において重要と考えるポイントは？（複数回答）



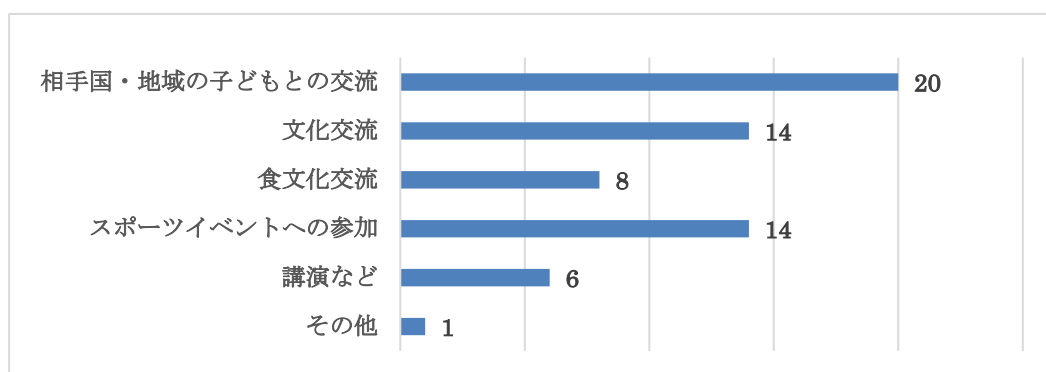
Q6. ホストタウンの取組をご存知でしたか？



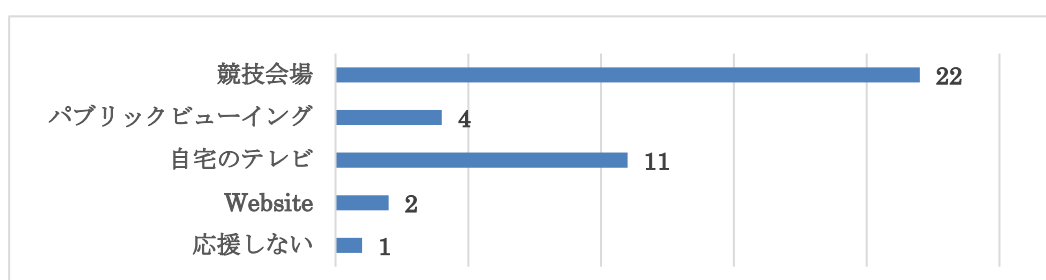
Q7. ホストタウンの取組についてどう思いますか？



Q8. ホストタウンの交流事業で興味があるものは？（複数回答）



Q9. ホストタウンの相手をどこで応援したいと思いますか？（複数回答）



Q10. ホストタウン交流に関してご意見・ご感想など自由にご記入下さい。

- ・楽しく交流させていただき、ありがとうございました。【3票】
- ・外国の方々と交流できたのでよかった。【4票】
- ・素晴らしかった。チャンスがあったらまた参加したい。
- ・とても楽しく海外の人と触れ合えるので良い。用意も不要で身軽だと思う。
- ・みんなと戦えて楽しかった。
- ・まだまだ知られていないので、もっとメディアで取り上げてもらい、知名度が上がるとよい。
- ・司会やルール説明など、聞き取りづらいことが多かった。
- ・今回はボツワナ人5名を招待して頂きありがとうございました。本人たちも心から楽しんでいたと思う。
- ・周りの人の協力があってこそ、この競技が成り立っていると思う。

7. アンケート結果を受けて

「ベースボール5」は比較的簡単な用具で試合が可能であることに加え、ルールも分かりやすく、短い時間で参加者が試合ルールを理解することができた。

日本人と参加外国人の混合チームにすることにより、連帯感・一体感が増し、良いプレーが出たときには敵味方関係なく、全員で盛り上がり、交流が深まる大きな要因となった。

試合終了後もお互いの健闘を称え合う場面があり、特に小中学生の年代については、短時間で打ち解け合うことができ、思い出に残る取組になった。

スポーツを通じたアフリカとの交流については、ルールが平易であり、子どもから大人までだれでも参加がしやすいこと、費用をあまりかけずに実施できること、気軽に実施出来る事などが持続的な交流のために有効な手段であることがうかがえる。

⑤ホストタウン自治体での現地交流

1 概 要

TICAD 7を契機とした交流をさらに充実したものとするため、アフリカを相手国とするホストタウン及びアフリカを相手国としてホストタウンを検討している自治体の住民との交流を実施。各相手国からの招待者をそれぞれ下記7自治体へ派遣した。

参加した住民に対し、ホストタウンの認知度や期待度を調査し、相手国関係者やホストタウン関係者、ベースボール5関係者にはスポーツ交流の継続の可能性や課題、東京大会後も継続した交流に必要な取組の調査を行った。

2 対象ホストタウン自治体・相手国

- ① 岩手県八幡平市／ルワンダ共和国
- ② 埼玉県幸手市／ベナン共和国
- ③ 千葉県佐倉市／ボツワナ共和国
- ④ 東京都江戸川区／チュニジア共和国
- ⑤ 宮崎県日向市／トーゴ共和国
- ⑥ 鹿児島県三島村／ギニア共和国
- ⑦ 沖縄県中城村／カーボベルデ共和国

3 各自治体の調査対象プロジェクト

① 八幡平市／ルワンダ共和国

(1) モデルプロジェクトの具体的内容・実施スケジュール

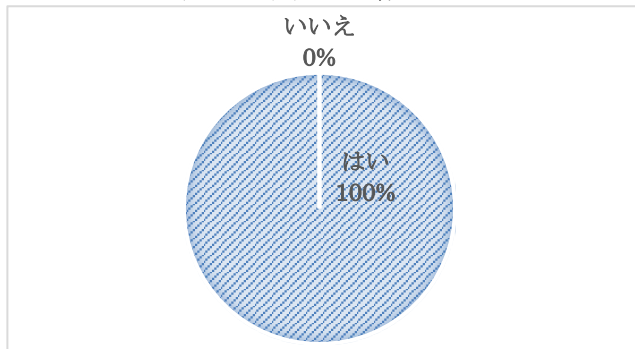
◆令和元年8月26日(月)～8月28日(水)

リンドウの栽培現場や関係施設などに案内し、市内のリンドウ生産状況について紹介した。27日には、リンドウ農家の種市新一氏の圃場や作業場へ案内し、収穫作業などを体験してもらったことで、八幡平市産リンドウの品質の高さや生産技術の高さを伝える良い機会となった。

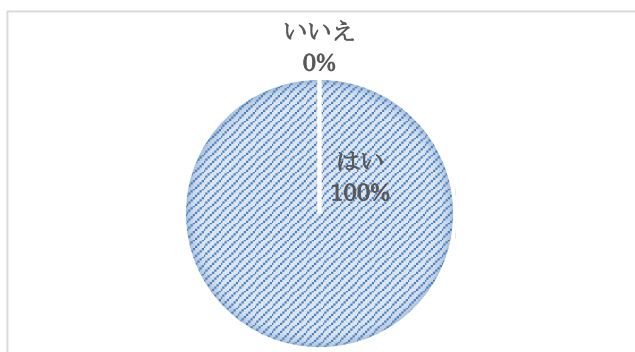


(2) アンケート結果（市民向け）

Q1. ホストタウンの取組をご存知でしたか？



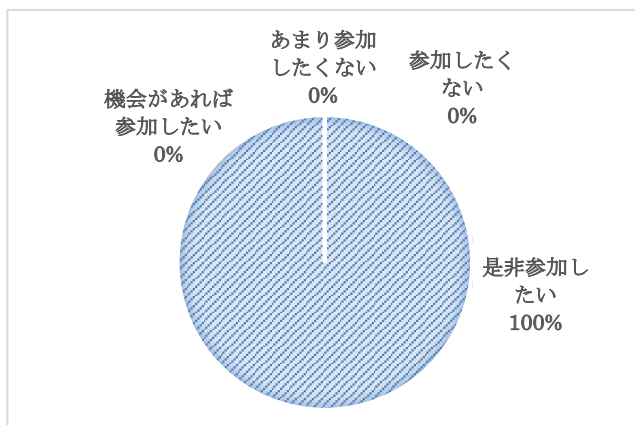
Q2. 今回相手国・地域の方と交流して楽しかったですか。その理由を教えてください。



その理由

- ・地方ではあまり経験出来ないアフリカの方々と交流が出来て良かった。
- ・ルワンダを通じて普段あまり接することのない地元の方とも交流でき、良い体験が出来た。
- ・交流を喜んでくれたことが嬉しかった。

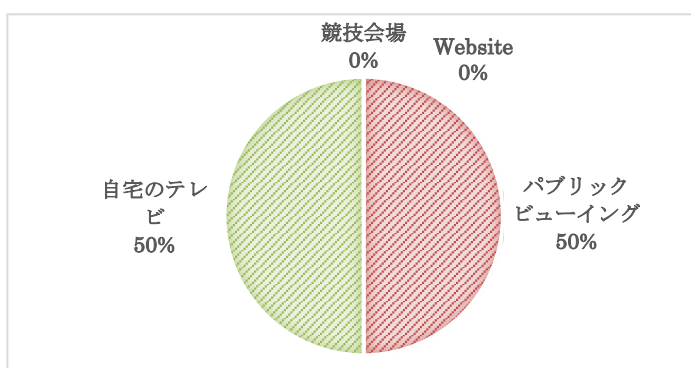
Q3. 今回の地域交流に参加して、今後もイベントがあればまた参加したいですか？



その理由

- ・我々大人だけでなく、子ども達にとっても国際交流の良い機会である。
- ・せっかく交流を持つ事が出来たので、オリンピックで最高の結果を残せるよう最大限のサポートをしたい。

Q4. ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？



Q5. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含めご意見・ご感想など自由にご記入ください。

- ・普段滅多に接することのない、地球の裏側にあるアフリカの方々とスポーツを通じた交流、音楽を通じて言語の壁を超えた交流を持つ事ができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来た。是非オリンピックに出場し活躍していただきたい。
- ・ホストタウンでなければ実現出来なかったであろう相手国と交流することが出来た事はとても良い経験になった。この機会を今後のキャリアにも活かしていきたいと思う。

(3) 自治体からの意見・感想

- ・市特産の花であるリンドウのルワンダ共和国での現地生産及びヨーロッパへの輸出が始まったばかりであることから、リンドウ栽培が盛んな地域で特に次の世代を担う中学生と交流事業を行ったことは、リンドウ生産の啓発に繋がるとても意義のあることだと考えている。
- ・経済交流としてリンドウのルワンダ共和国での現地生産及びヨーロッパへの販路拡大を目指し、現地生産者の八幡平市での栽培研修（7か月程度、生産から出荷まで）等を通じて交流を行っている。
- ・経費負担、食事、言語の対応に難しさを感じている。

② 幸手市／ベナン共和国

(1) モデルプロジェクトの具体的内容・実施スケジュール

◆令和元年8月23日（金）

成田空港へ到着したチアペ・ジェリー氏を出迎え、幸手市へ移動した後、行幸小学校にて交流事業を行った。横浜でのイベントに参加した児童を中心に、ベナン共和国のダンスを踊ったり、民族楽器と一緒に演奏するなど、ベナン共和国の伝統的なリズムを体感出来る音楽交流となった。

夕刻には市議会議員や市職員が出席しての親睦会を開催した。幸手市副市長からの挨拶やチアペ氏からの挨拶、文化や生活様式の違いの説明や日本についての感想が述べられた後、質疑応答などの交流が行われた。またチアペ氏よりベナン共和国の民族楽器演奏とダンスの披露も行われた。

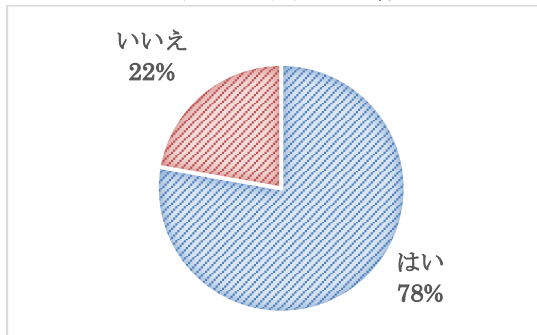
◆令和元年8月24日（土）

吉田小学校にて児童13人、東中学校生徒5人、幸手太鼓・楽メンバーとの交流事業として、子ども達による楽器の演奏披露、チアペ氏のダンス・楽器演奏披露、そしてコラボレーションセッションを行った。

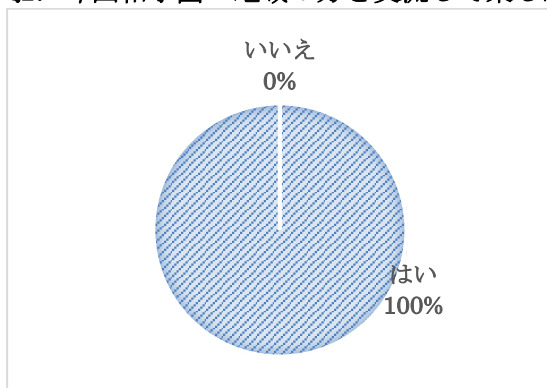


(2) アンケート結果（市民向け）

Q1. ホストタウンの取組をご存知でしたか？



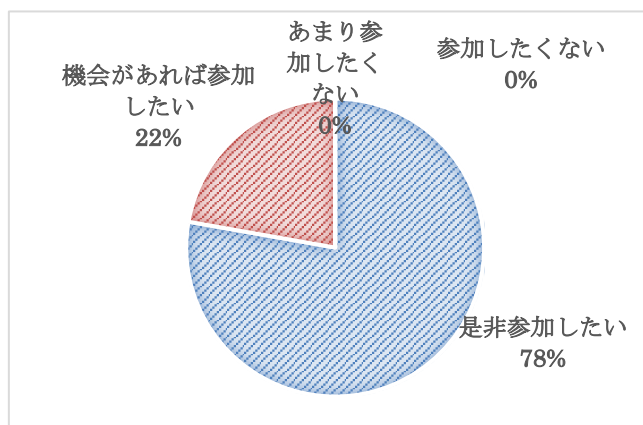
Q2. 今回相手国・地域の方と交流して楽しかったですか。その理由を教えてください。



その理由

- ・演奏後に温かい拍手をいただき楽しかったので、また交流したい。
- ・皆の前で太鼓をたたけた。
- ・楽器や曲が素晴らしく楽しかった。
- ・相手国に日本を伝えることも、教わることも初めてで楽しかった。
- ・さくらさくらが楽しかった。
- ・初対面の人とも一緒に演奏、活動出来た。

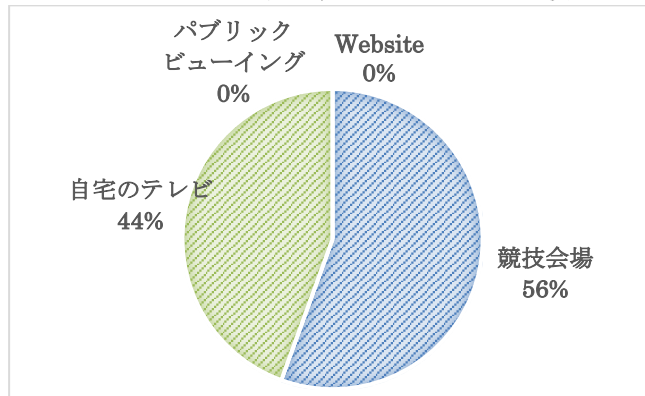
Q3. 今回の地域交流に参加して、今後もイベントがあればまた参加したいですか？



その理由

- ・ こういう経験を沢山してみたい。
- ・ 外国人や外国との関係を深めたい。
- ・ もっと深く相手国の文化を知りたかった。
- ・ 楽しかったため、また参加したい。
- ・ 皆と協力して、沢山のひとと交流出来る。
- ・ ジャンベでのセッションが良く、色々知る事が出来た。
- ・ いつも発見や勉強になることがある。

Q4. ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？



Q5. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入ください。

- ・ 楽しかった。優しく分かりやすく教えていただき、機会があればまた行きたい。 3票
- ・ 色々な楽器に触れ、様々な国の人と一緒に演奏出来て嬉しい。
- ・ さくらさくらはぶつつけ本番だったが、色々な人が支えてくれたので楽しく演奏出来た。
- ・ ベナン共和国を知れて良かった、また参加したい。
- ・ とても貴重な経験になった、充実した時間を過ごした。

(3) 自治体からの意見・感想

- ・ 当市はベナンのホストタウンとして登録されたが、市民の認知度や相手国であるベナンへの関心度は、未だ低いように感じている。しかしメディアやマスコミ等を通じてホストタウンの取組は少しずつ市民にも認知が広まりつつある。
ベナンに日本の武術や文化を伝える交流事業を通じて、市民が相手国へ興味や関心を持つきっかけともなり、そのことがさらに交流を活性化させている。
- ・ 文化、スポーツ、食の分野における交流活動は、誰にでも（特に子どもたちにとって）身近であり、理解しやすいため重視している。
- ・ 経費負担、食事、言語への対応、アフリカとの距離に事業実施の難しさを感じているが、今回の交流はとても有意義であった。サイドイベントに参加した行幸小学校の児童達にとっても印象に残る経験になったと思う。今後も今回の交流の経験を生かして、地域の国際化、活性化の為に相手国との交流を継続していきたい。また、アフリカを相手国とする他自治体とも、今回の繋がりを生かして連携していきたい。

③ 佐倉市／ボツワナ共和国

(1) モデルプロジェクトの具体的内容・実施スケジュール

◆令和元年8月25日（日）

佐倉市立臼井中学校にて市内ソフトボール部員約 30 名とソフトボールを通じての交流を行った。交流後、旧堀田邸や武家屋敷など市内見学し、佐倉市の歴史や日本文化に触れあう機会となった。

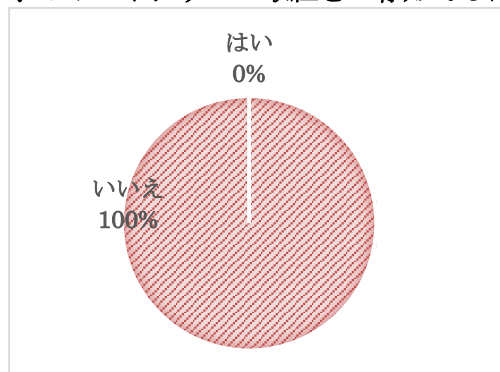
◆令和元年8月27日（火）

佐倉市庁舎へ訪問し、市長への表敬訪問を行った。

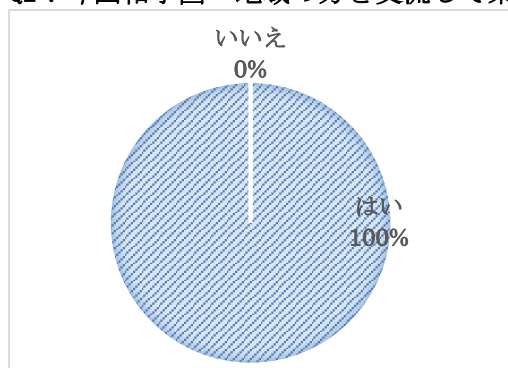


(2) アンケート結果（市民向け）

Q1：ホストタウンの取組をご存知でしたか？



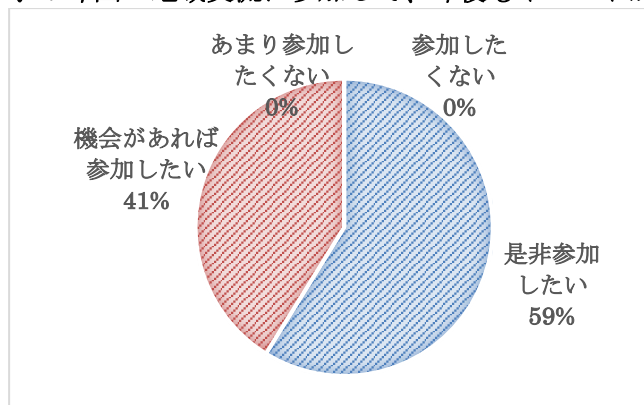
Q2：今回相手国・地域の方と交流して楽しかったですか。その理由を教えてください。



その理由

- ・同じスポーツをプレーして実際に様々なことを知って楽しかった。 【5票】
- ・今、自分に足りない部分が分かり、相手の事を覚えたりすることが出来た。
- ・他国の人と話ができた上、ソフトボールについて教えてもらった。 【3票】
- ・ピッチングフォームを教わったり、お互いの国の事を聞くなどの交流が出来た。 【3票】
- ・プロ選手の意識していることや身体のケアの仕方などを聞けて良かった。
- ・自分に出来ないことを簡単にやっていて凄いと思った。
- ・ボツワナ共和国の選手の投げた球がとても速かった。 【2票】
- ・プロの人達をみて凄いと思った。

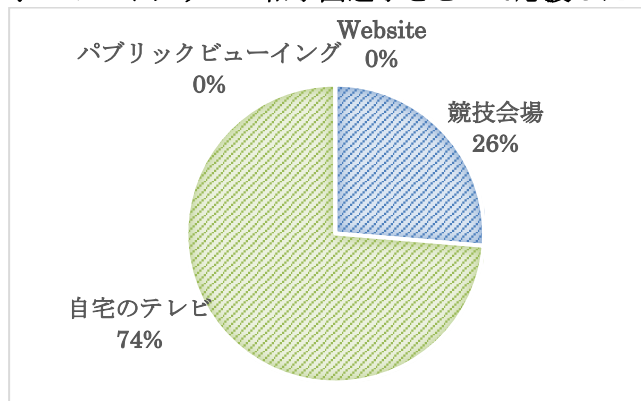
Q3：今回の地域交流に参加して、今後もイベントがあればまた参加したいですか？



その理由

- ・新しいことを学べるから参加したい。 【4票】
- ・今回交流する時間が少し短い気がしたので、もっと沢山交流したいと思った。
- ・もっと外国の方の練習方法などを知りたい。 【3票】
- ・外国の選手を近くで見られて良かった。
- ・今回の交流でスポーツをする楽しさを知る事が出来た。
- ・また違ったルールで試合を楽しめると思う。
- ・楽しかった。 【3票】
- ・楽しかった。遠方だと行けない可能性があるが、機会があれば参加したい。
- ・都合が合えばまた参加したい。

Q4：ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？



Q5：ホストタウン交流に関して、今回の交流も含めご意見・ご感想など自由にご記入ください。

- ・国を超えて交流する楽しさを知った。ボツワナの人も優しく教えてくれて良い経験になった。
- ・今回の交流でこれからの生活や練習をどうしていくべきか意識していこうと思った。感謝の気持ちを忘れずに過ごしたい。
- ・質疑応答がためになった。自分に必要なのは技術だと分かった。またぜひ参加したい。
- ・普段は交流の機会が少ないので、今回交流出来て良かった。
- ・ボツワナの方々の話が聞けて嬉しかった。機会があればもっと聞きたいと思った。 【5票】
- ・ソフトボールのアドバイスを聞け、実際にプレーを見られた事が良かった。どのような練習をし、プレーしているか分かった。 【3票】
- ・次回も参加したいので、横浜で実施したベースボール5を広めていってほしい。
- ・自分で解決できなかったことを聞けて良かった、また参加したい。
- ・今回は時間が無く質問出来なかったが、また機会があれば参加したい。
- ・とても楽しかったので又交流出来ればと思う、応援しているのでこれからも頑張ってください。

(3) 自治体からの意見・感想

- ・相手国の民族性や文化、風習、生活習慣等に触れることにより、グローバル人材の育成や地域の国際化につながる交流事業に意義を感じている。
- ・スポーツ交流を重視し、グローバル人材の育成だけでなく同時にスポーツ振興も図っている。
- ・経費負担とアフリカとの距離に課題を感じている。
- ・今回は準備期間が短く、日程も流動的だったことから、充実した計画・受入体制が構築出来なかった。

④ 江戸川区／チュニジア共和国

(1) モデルプロジェクトの具体的内容・実施スケジュール

◆令和元年8月30日（金）

江戸川区立第二葛西小学校の体育館にて、全校児童952名との交流プログラムが実施された。このプログラムは同校が東京都のオリパラ教育である「世界ともだちプロジェクト」でチュニジア共和国を学習・交流の対象としていることから実現したものである。

児童がチュニジア共和国について学習したことを発表。代表の児童がカルイ氏より、アラブの打楽器「ダラブッカ」の演奏法を教わり、最後にスラルフィ氏の指導及びカルイ氏のピアノ伴奏により、全員がピアノやリコーダー、リングベル等の楽器で参加する即興演奏会を実施した。

◆令和元年9月1日（日）

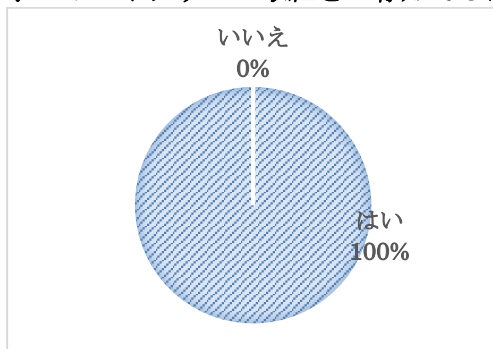
江戸川区総合文化センター内大ホールにて、江戸川フィルハーモニーオーケストラと共演・相互演奏等を行った。

カルイ氏が日本の歌曲「さくらさくら」を自身のアレンジでピアノ演奏した後、自国の曲を演奏し相互の文化を披露。スラルフィ氏の指揮で日本初演のチュニジア共和国の曲を演奏する等、音楽を通じた文化交流となった。

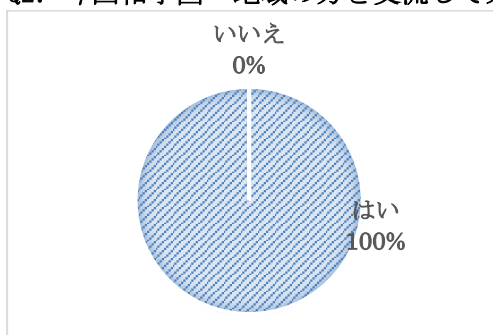


(2) アンケート結果（区民向け）

Q1. ホストタウンの取組をご存知でしたか？



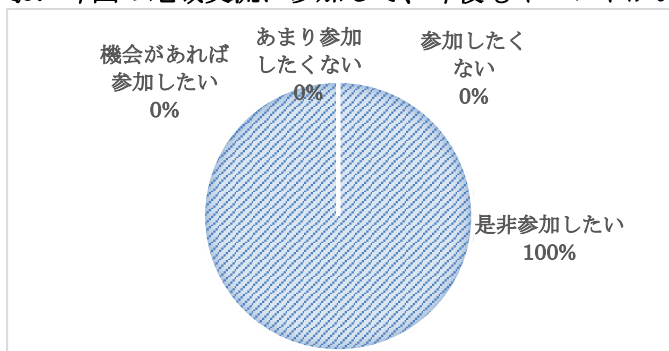
Q2. 今回相手国・地域の方と交流して楽しかったですか。その理由を教えてください。



その理由

- ・他国との文化交流等なかなか機会がなく、貴重な経験でした。

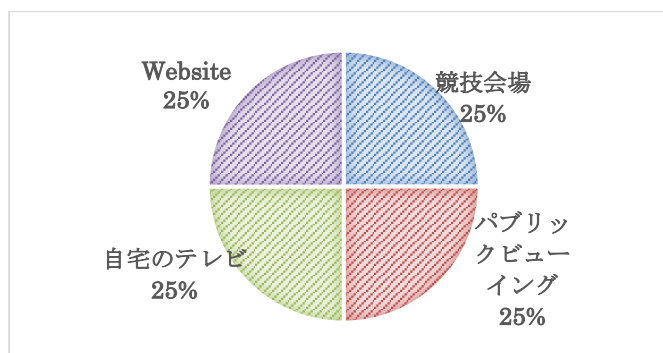
Q3. 今回の地域交流に参加して、今後もイベントがあればまた参加したいですか？



その理由

- ・次回は十分な準備をして、万全を期して臨みたい。

Q4. ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？（複数回答）



Q5. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含めご意見・ご感想など自由にご記入ください。

- ・早い段階で企画が分かれば、色々準備してより楽しいイベントになったと思うので残念。

（3）自治体からの意見・感想

- ・地域住民の異文化理解、国際感覚の醸成に大きな意義を感じており、文化、経済、スポーツ等の交流を重視している。
- ・経費負担と異文化に対する理解不足を感じている。

⑤ 日向市／トーゴ共和国

(1) モデルプロジェクトの具体的内容・実施スケジュール

◆令和元年8月31日（土）14:00～16:00

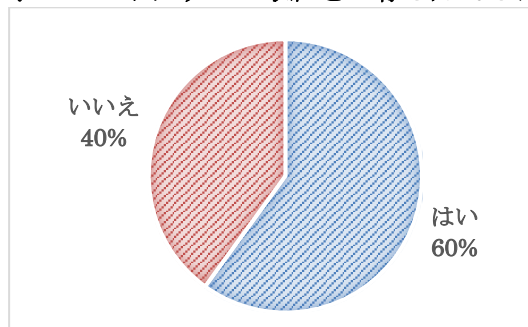
イベント名を「ダンス DE 国際交流 With TOGO」と題し、日向市文化交流センター内の小ホールにて交流プログラムを実施した。市民へは事前にチラシを配布し、参加者の募集を行い、当日は50名が参加した。

プログラム内容は、①パスカル氏によるダンス披露 ②ダケ氏によるアフリカダンスの歴史等の説明 ③パスカル氏のダンスレッスン ④日向ひょっとこ踊り披露 ⑤ダンスコラボ（アフリカン&ひょっとこの参加者総踊り）と相互の音楽文化を体感できる交流イベントとなった。

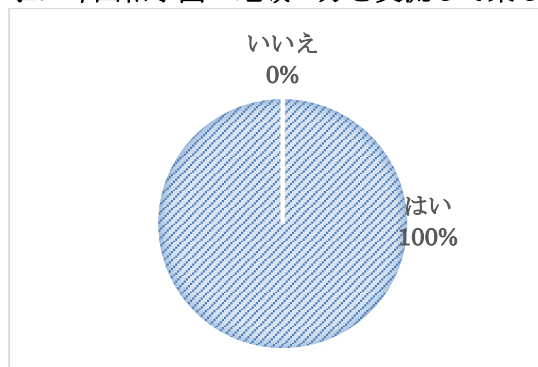


(2) アンケート結果（市民向け）

Q1. ホストタウンの取組をご存じ知でしたか？



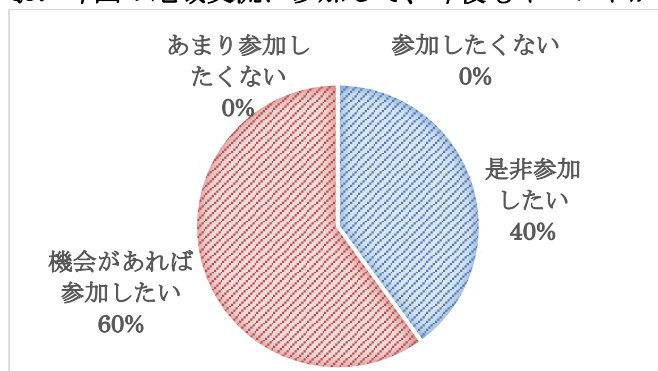
Q2. 今回相手国・地域の方と交流して楽しかったですか。その理由を教えてください。



その理由

- ・アフリカダンスの話が分かりやすかった、ダンスを教わって面白かった。 【2票】
- ・相手国の歴史（ダンス）を知ることができ、一緒に交流出来て良かった。
- ・手話通訳があり内容が分かりやすく、ダンスの力強さに魅力を感じた。
- ・現地の水源の浄化の様子を見られて良かった、今後も援助を続けてほしい。
- ・ダンスレッスンが本気だった。
- ・笑顔が素敵だった。

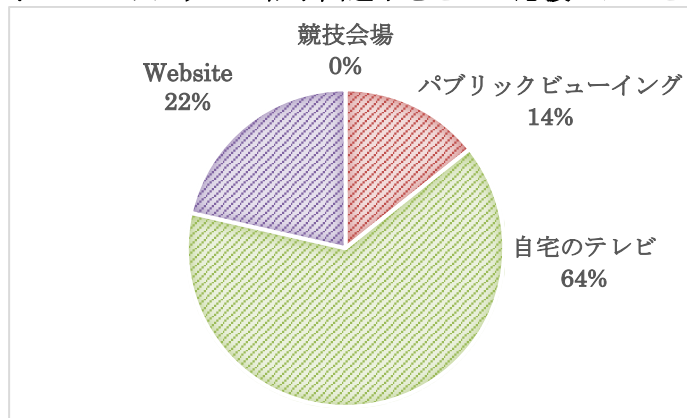
Q3. 今回の地域交流に参加して、今後もイベントがあればまた参加したいですか？



その理由

- ・他国のことが知れて面白かった。
- ・日程が合えば、また参加したい。
- ・トーゴ共和国の人だけでなく、市内の人とも楽しく触れ合える。他国の事を直接聞ける。
- ・色々な地域について知りたい。参考になる。 【2票】
- ・トーゴ共和国の人と直接話が出来て気候の違い等も分かった。また交流したい。
- ・異文化に触れる機会として楽しめた。

Q4. ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？



Q5. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入ください。

- ・もっと多くの市民が参加すると良い。 【2票】
- ・交流がダンスだけでなく、話しが出来る場が欲しかった。
- ・市民レベルの交流ができ、他国を身近に感じられた。
- ・ホストタウン交流があると誘われ初めて参加した。手話通訳もあり分かりやすかった。
- ・力強いダンスが素晴らしいと思った。
- ・交流を通してコミュニケーションの方法について知ることが出来た。今後も交流を継続してほしい。
- ・異文化交流の大切さを痛感。子どもに良い体験だと思うので学校でも積極的に実施してほしい。

(3) 自治体からの意見・感想

- ・日常生活で知る機会のない互いの国の文化や言葉を知ることが出来る大変意義のある取組である。
- ・相手国のことを知ることで興味・関心を持つきっかけとなり、相手国を応援したり、大会終了後においてもクラウドファンディングを通じた経済的支援など様々な面で繋がりを持つ事が期待できる。
- ・言葉が通じなくても相互理解を推進し、地域住民のグローバル化に寄与する文化・スポーツ交流を重視している。
- ・相手国より関係者を招へいし、市民との交流を実施出来たことはとても素晴らしいことであり、今回のホストタウン事業に取り組んで良かったと思っているが、大会終了後、どのような形で交流を継続するか、経費や、言語への対応、アフリカとの距離などが課題だと考えている。

⑥ 三島村／ギニア共和国

(1) モデルプロジェクトの具体的内容・実施スケジュール>

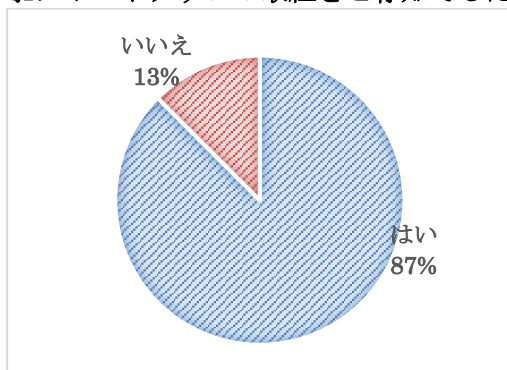
◆令和元年9月1日～3日

三島村硫黄島にてギニア共和国の児童4名と村内児童・生徒52名が参加した「みしまっ子集合学習」を実施し、合同始業式・合同授業・ジャンベ発表会等を行った。(ギニア共和国児童4名、村内児童・生徒52名)

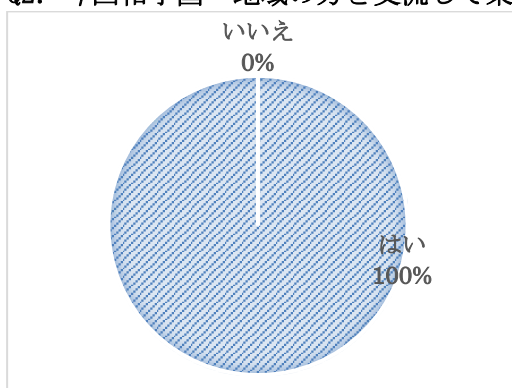


(2) アンケート結果（村民向け）

Q1. ホストタウンの取組をご存知でしたか？



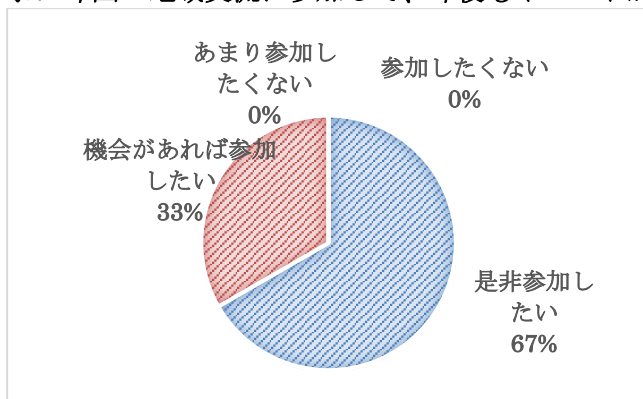
Q2. 今回相手国・地域の方と交流して楽しかったですか。その理由を教えてください。



その理由

- ・子ども達が可愛かった。
- ・ギニア共和国の子ども達と実際に会い、交流を通じて成長を感じた。
- ・言葉は分からなかったが、コミュニケーションを通じて仲良くなれた。 【2票】
- ・子ども達に良い刺激と影響を与えてくれたと思う。
- ・普段関わることのない人と交流出来て、面白い発見があった。
- ・こういった交流に参加するのは初めてで国を超えての交流の素晴らしさを改めて感じた。
- ・ジャンベという共通のキーワードで交流の輪が広がっていく様子が見られて心地よかった。
- ・相手国の文化を感じることが出来て楽しかった。

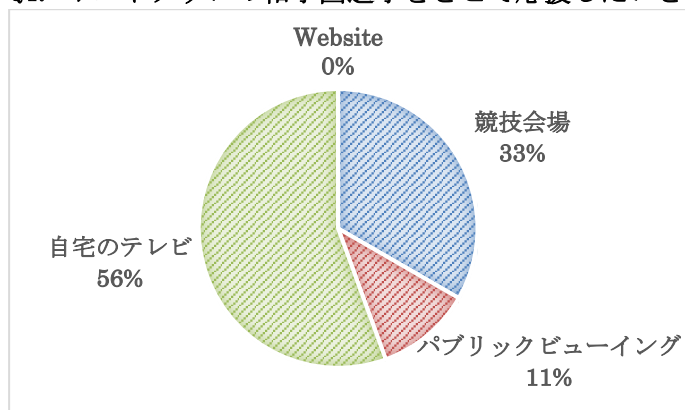
Q3. 今回の地域交流に参加して、今後もイベントがあればまた参加したいですか？



その理由

- ・大変素敵な機会だったので参加したいが、日程調整が難しく感じた。
- ・準備も大変なので、数年に1度なら参加したい。
- ・もっと他の国に住んでいる人と交流したい。
- ・なかなか参加出来るイベントではないと思うので貴重な体験ができた。また楽しい思い出を増やしたい。
- ・25年間の思いや願いが形になった姿をみて感動した。このような機会が増え発展することを願う。
- ・今日参加して良かった。

Q4. ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？



Q5. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含めご意見・ご感想など自由にご記入ください。

- ・他の自治体がどのような活動をしているのか興味を持った。活動している・していない自治体の温度差があると感じた。
- ・相手の国をもっとよく知りたいと思った。
- ・貴重な経験をさせてもらい子ども達にとっても良かったと思う。大人向けにも簡単な交流が出来るように言語の講座があれば良いと思う。
- ・貴重な体験をし良い時間を過ごした。交流の準備や様々な配慮を頂き有難うございました。
- ・オリンピック特別招待枠があると嬉しい、オリパラ後も継続的な交流がしたい。
- ・人と人との交流を文化・産業・経済と強いものに発展させていかないとお祭りで終わってしまう。三島村が国際交流の島、アフリカの窓口になることを願う。

(3) 自治体からの意見・感想

- ・村民が異文化に触れるとともに、日本や三島村の良さを改めて認識し、郷土愛と誇りを育むことが出来ることに意義を感じている。
- ・ギニア共和国との繋がりをPRすることで国内外からの交流人口増加を図りたい。
- ・1994年からジャンベを通じた交流を継続しており、ギニアの子どもを本村へ招へいし交流を望んでいた。しかし、ギニア共和国のホストタウンに登録されたこときっかけにギニア共和国の子ども達を招へいし、村の子ども達と交流出来たことは意義深く、交流を通じて地域の活性化や、住民のグローバル化が進展する事を期待をしている。
- ・言葉の通じない中、子ども達はジェスチャーでコミュニケーションを図り、短い期間ではあったが再会の約束をした子どももいた。2020年のオリパラ後もジャンベという楽器を通じてギニアとの交流を継続していきたい。

⑦ 中城村／カーボベルデ共和国

(1) モデルプロジェクトの具体的内容・実施スケジュール

◆令和元年8月31日（土）

午前、JICA 沖縄を訪問し、所長をはじめとした職員との意見交換、各国からの研修生と車いすバスケットボール体験を通じて交流を図った。その後、交流会では JICA 沖縄内の「OIC 食堂」にて各国の食習慣や宗教に配慮したメニューを紹介した。

午後、沖縄県立博物館・美術館にて、企画展「沖縄とスポーツ国体、オリンピックの記憶」を視察し、夕刻からは吉の浦会館にて「ようこそ 中城村へ！カーボベルデ共和国 歓迎会」と題し、村民との交流事業を実施した。

◆令和元年9月1日（日）

午前、教育委員会職員の案内で、中城村内の文化財である中城城跡、及び公共施設である中城村歴史資料図書館を視察した。

午後は、同じく TICAD 7 サイドイベントのためにカーボベルデ共和国から招へいしたパラボクシング選手・ボクシング選手ならびにコーチの三名とボクシングジムにて沖縄県内のプロ・アマボクサーとの練習及び公開スパークリングを通じた交流プログラムを実施。その後、ボクシングジムの会長・トレーナー・選手との意見交換及び交流会を行った。

◆令和元年9月2日（月）

午前は津覇小学校、午後は中城南小学校を訪問し、カーボベルデ共和国の紹介と意見交換・交流及び授業参観を実施。夕刻には琉球舞踊研究所を訪問し、琉球料理をツールとした文化体験を含む交流を行った。

◆令和元年9月3日（火）

午前は中城小学校、午後は中城中学校のそれぞれの特別学級を訪問。カーボベルデ共和国の紹介、生徒らと意見交換を行った後、授業参観、日本の給食の紹介を行った。また、中城中学校では陸上部の活動に参加し、体験交流と意見交換会を実施した。

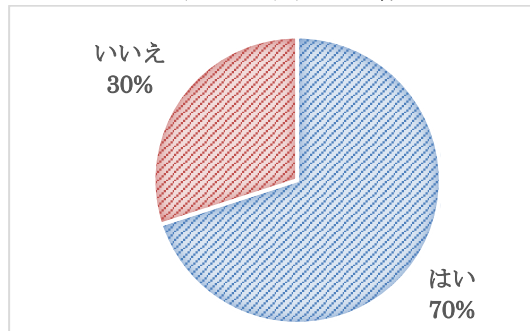
◆令和元年9月4日（水）午前【KBC 学園 未来高等学校】

学校法人 KBC 学園未来高等学校を訪問。生徒が村内のオリンピック・パラリンピック大会への機運を高めるために実施しているポスター制作プロジェクトの一環で、一年生6名がホセ・ロドリゴ・ベハラノ氏と選手たちにインタビューを行い、撮影や取材を通して交流を深めた。

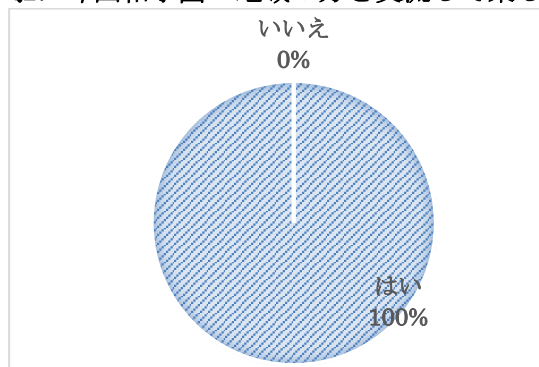


(3) アンケート結果（村民向け）

Q1. ホストタウンの取組をご存知でしたか？



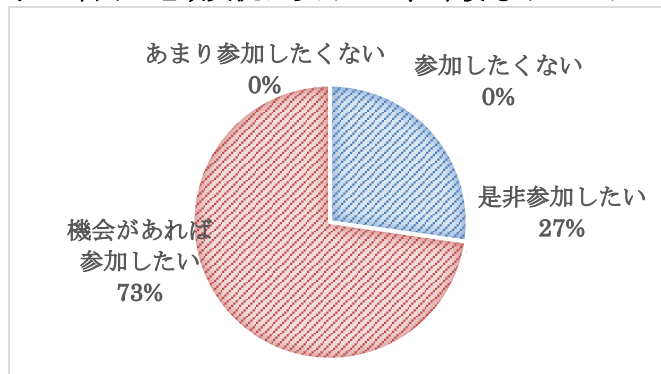
Q2. 今回相手国・地域の方と交流して楽しかったですか。その理由を教えてください。



その理由

- ・ 普段交流出来ない人と交流できて楽しかった。知らない地域について知るのも好きなため。
- ・ アフリカの方とはじめて会えた。
- ・ 相手国の文化等を知ることが出来た。 【2票】
- ・ とてもフレンドリーで子ども達も気さくに接してくれた。

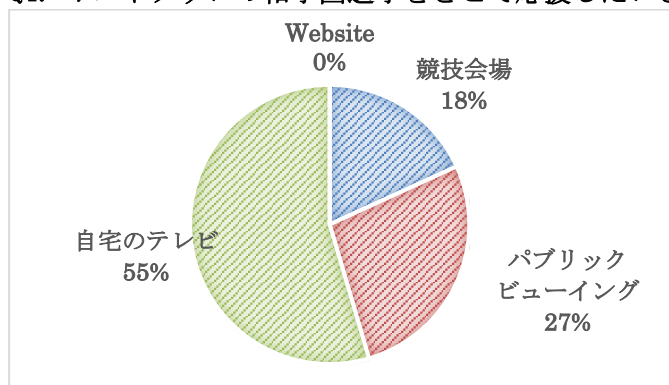
Q3. 今回の地域交流に参加して、今後もイベントがあればまた参加したいですか？



その理由

- ・もっと文化等を知りたい。

Q4. ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？



Q5. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含めご意見・ご感想など自由にご記入ください。

- ・オリパラも是非頑張してほしい。
- ・もう少し地域でPRした方が良いと思う。

(4) 自治体からの意見・感想

- ・ホストタウンの活動は、東京大会への関心を深めるとともに、大会後の交流活動において、特に相手国と子ども達が交流する事で、又 JICA 等の国際協力活動に触れる事で日本・沖縄・中城に誇りをもち、世界に目を向けた国際感覚を持った人材を育成する事が出来ると期待している。
- ・文化、スポーツ、人材育成等の人的交流を重視している。
- ・今後の交流においては、経費負担、言語対応、アフリカとの距離等が課題と考える。特に、言語はポルトガル語で、事前調整時にも苦労したので、今後の調整、交流時には、ポルトガル語の通訳を入れることで解消し、関係を構築していきたいと考える。

4. 各ホストタウンでの交流状況を踏まえて

各ホストタウンにおいては、直接相手国の関係者と触れ合う機会は重要であると考えており、音楽や食などの異文化交流などを通して、相手国を知る機会になっている。

アフリカ諸国を相手国とするホストタウンにとっては、地理的な問題のほか、交流費用、言語の面で交流に障壁があると感じている自治体もあり、円滑な交流のためにはそれらの課題を解消する取組が必要であると考えている。

⑥アフリカを相手国としたホストタウンの登録の促進

1 概 要

令和元年8月18日～24日までオリンピック、9月8日～14日までパラリンピック、各それぞれ公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会主催の団長会議が開催され、全世界から東京大会の団長が集まる。その機会に主にアフリカ諸国を相手国とするホストタウンを目指す自治体を集め、ホストタウン登録促進のため、団長と直接交渉するマッチングミーティングを開催。

今後のアフリカのホストタウン登録拡大に向けて、参加自治体及び相手国関係者に、ホストタウン登録の推進について効果的な手法や課題等を図る調査を行う。

2 日時・場所

オリンピック団長会議：令和元年8月22日（木）ホテルニューオータニ 翠鳳の間
パラリンピック団長会議：令和元年9月12日（木）ホテルニューオータニ AZALEA

3 参加ホストタウン自治体及び相手国

<オリンピック団長会議>

8月22日 相手国名	自治体名	
ガンビア共和国	大阪府守口市	
チュニジア共和国	宮城県石巻市	茨城県神栖市
モーリタニア	群馬県渋川市	
ブルキナファソ		
ウガンダ共和国		
コートジボワール共和国		
モロッコ王国		

<パラリンピック団長会議>

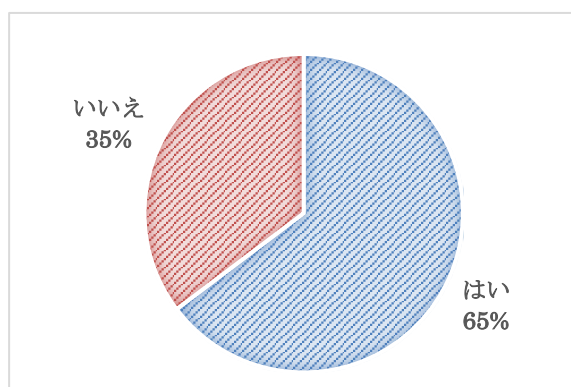
9月12日 相手国名	自治体名	
ガンビア共和国	大阪府守口市	
ガーナ共和国	埼玉県北本市	福島県
ギニアビサウ共和国		

4 記録写真

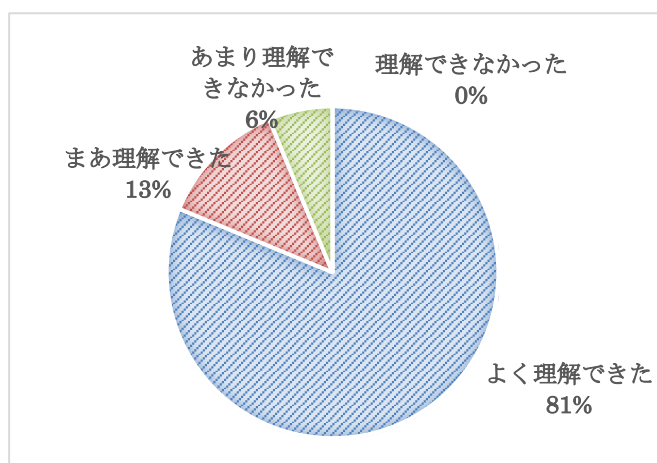


5. アンケート結果（オリンピック、パラリンピック団長会議共通）

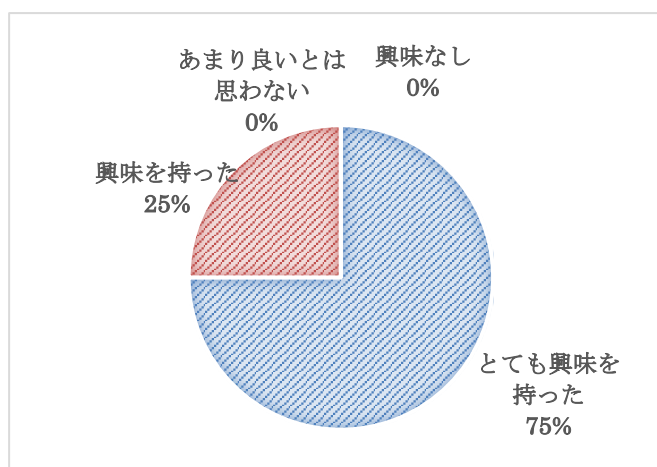
Q1. ホストタウンについての取組をご存知でしたか？



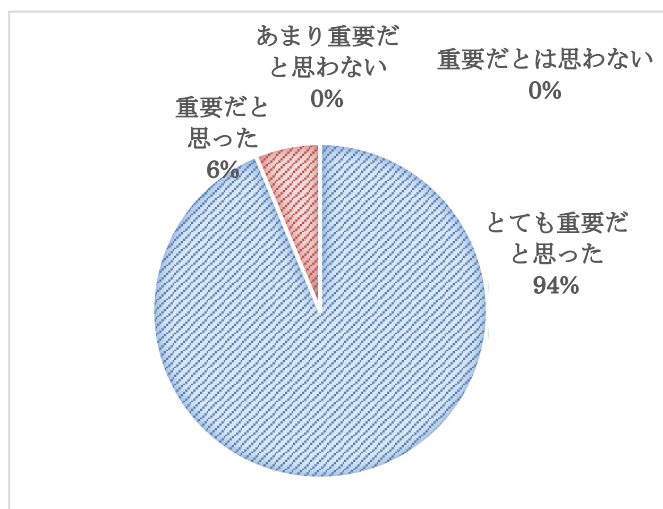
Q2. 今回のイベントをうけて、ホストタウンについて理解ができましたか。



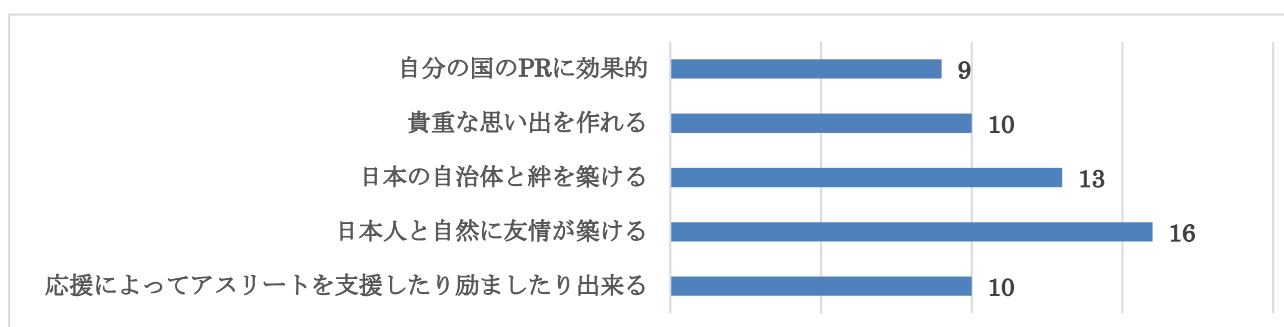
Q3. 情報を得てホストタウンの取組に興味を持ちましたか？



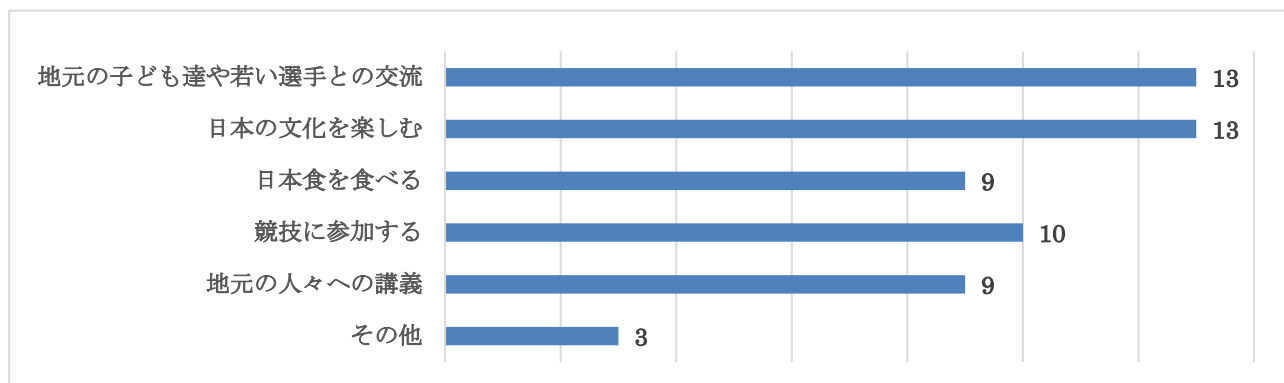
Q4. スポーツ選手達がホストタウンの取組を通して日本人や自治体と交流することは重要だと思
いましたか？



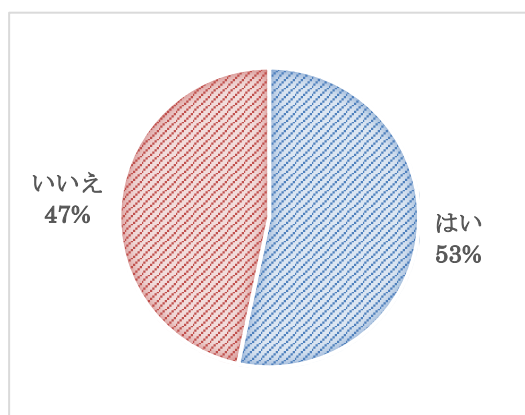
Q5. Q4で「とても重要」「重要」と答えた方、ホストタウンの取組はどのような点で重要だ
と思いますか？（複数回答）



Q6. あなたはどのような交流に興味を持ちましたか？（複数回答）



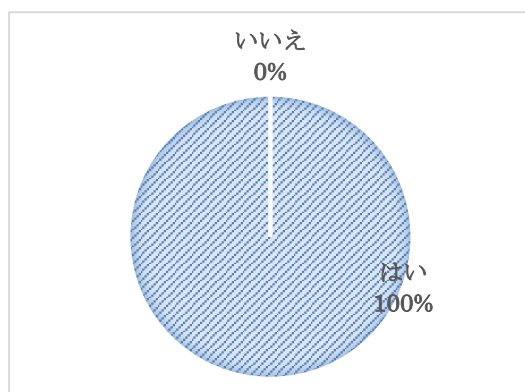
Q7. ホストタウンの活動に参加した場合、SNS で発信したいと思いますか？



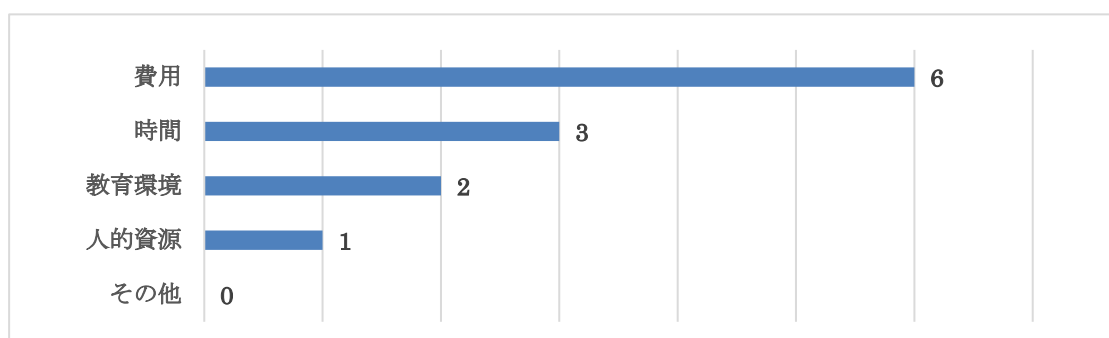
その理由は？

- ・ 良いことは広く発信されるべきである。
- ・ とても良く、役に立つ機会だった。
- ・ PR の助けになる。

Q8. 2021 年とその後、あなたはご自身のホストタウンを訪れたいですか？



Q9. 今回のイベントに参加する際に、何か困難なことはありましたか？（複数回答）



Q10. ホストタウンの交流や取組についてご意見があればお聞かせください。

- ・素晴らしいイベントだった。【2票】
- ・とても良いアイデア。
- ・積極的に私たちの動きをサポートしてくれる。
- ・広報等を増やし支援する。
- ・とても興味深い、東京大会に向けた財産になる。
- ・ホストタウンの活動は、東京大会後もガンビア共和国と日本の間の友好関係を推進するきっかけとなる。
- ・友好関係を築く上で大変手助けになる。
- ・とても参考になり面白かった。今後も色々な情報を知り、関わっていきたい。
- ・とてもプロフェッショナルで良い役割を果たしている。
- ・良かった。選手達も地元の人達や文化を知ることに関心を持つと思う。

6. アンケート結果を受けて

アンケートに回答した参加者のうち 35%がホストタウンの取組について知らなかった。しかし今回のミーティングに参加してその活動について概ね理解し、興味を持ったとの回答が大半であった事から、これを機に活動の浸透が図られることが期待される。

また、今後の交流について重視している、或いは希望する事は「日本人との友情を築くこと」、「自治体とのつながりを重視し、互いの文化体験、子どもたちや若い選手との交流を希望する」という回答が多く、今後の交流プログラム策定のヒントになると思われる。

会場では参加自治体が名産品などを持ち寄ったこともあり、食などの経済交流としての話し合いもなされていた。相手国の実情にあわせて交流する分野を文化、スポーツ、経済等から選択し、相手国と自治体の個々の事情に合わせた交流がホストタウン登録の促進につながるものと考えられる。

3. 成果のとりまとめ

(1) 成果の分析・評価

① ホストタウンへの波及効果

首長座談会及びアフリカ政府関係者との友好促進イベントには自治体関係者の参加が多かったこともあり、アンケートでは「他の自治体の活動が理解出来た」「大変有意義だった」といった回答が多く、他自治体の活動を参考にしたいというニーズが高い事がうかがえる。また本事業で実施した6つのプログラムについて、それぞれの参加者のほとんど（96%～100%）が「満足」「やや満足」と回答していることから、各事業プログラムについて今後の取組の参考とすることができたものと推測される。

また、一般の参加者へのアンケートでは、今回の各プログラムに参加したことで、ホストタウンの取組を知った、理解した、との回答が多かったうえ、取組内容については「とても良い」、「まあ良い」、「次回も参加したい」といった回答が多かったことから、市民らの参加者にもホストタウンの活動を広め、今後の参加を促すきっかけとなったものと考えられる。

② 事業実施により達成できた成果

首長座談会では、他の自治体の交流事例を共有し、参考とすることが出来た。

一方、自治体同士の意見交換やディスカッションの場を求める声も多いことや、自治体職員のマンパワー不足、市民の理解、財政面に課題を感じている自治体も多い事が判明した。

また、通行人など多いイベントスペースで伝統芸能等の音楽パフォーマンスを披露したことによりホストタウンを知らなかった市民に対して広く周知することができた。

今後は、各ホストタウンの取組の課題を解決する手段を検討することともに、住民の認知度向上を図ることがホストタウンの取組を活性化することにつながるものと思慮する。

③ 相手国への波及効果

来日した音楽家や現地交流の参加者が、帰国後に日本で体験したことをどのように関係者やメディアへ、又はSNSなどにより報告や発信を行うかによるところが大きい。

その波及効果については継続的な観察が必要であるが、アフリカを相手国としたホストタウンの登録促進イベント（マッチング交流）でのアンケートでは、その取組について「良く理解した」又は「まあ理解した」と回答した参加者が94%を占め、全ての参加者が活動に興味を持ち、2020年東京大会を契機として自国との交流を重要だと考えていると回答した。

相手国においてもホストタウンの取組についての認知を高め、交流を促進することが重要であり、東京大会に向けて相手国に対してホストタウンの取組を発信することを推進していく必要があるものとする。

④ 東京大会を契機としたレガシー創造への寄与

自治体関係者からのアンケート回答にもある通り、自治体が継続してホストタウン活動に取り組んで行くには、課題として挙げられた「職員のマンパワー不足」、「地域住民の理解の促進」、「財政面での不安」をサポートする体制も構築する必要がある。

また、ホストタウンの取組は、自治体と相手国の住民等が、スポーツ、文化、経済などを通じて交流し、地域の活性化・国際化等に生かしていくものであり、自治体は住民や民間企業等の理解・協力を得て幅広い分野で取り組むことが重要である。

自治体内でも今後は様々な部局（経済や観光、教育等）の連携、及び他のホストタウン自治体との連携を図り、取組を継続していくことがレガシー創造へ寄与すると考えられる。

（２）他ホストタウンへの普及・展開等

① 取組内容のモデル化

調査対象プロジェクトの実施を通じ、各自治体の担当者は他自治体の活動も知ることができ、相手国や他のホストタウン自治体との情報交換を行うネットワークづくりも進んだが、アンケート回答にもある通り、ホストタウン交流の実務に携わる自治体関係者との意見交換、成功事例や課題を共有する場が求められている。今回の事業で得られたホストタウン間の情報共有の重要性については、全国の多くのホストタウンにおいても有用であると考えられることから自治体間で連携した取組や仕組み作りを検討することが重要である。そのため定期的な意見交換の場を設けることや情報共有のプラットフォームを設置することなども一つの方策であるとする。

② 事業実施体制・フロー・経費

音楽でもスポーツでも交流には日本側にホストタウン交流の内容を理解した、コーディネーター的な役割を担う人材の存在（キーパーソン）が円滑な事業実施と推進には必要と思われる。今回の事業で実施した音楽交流の部分において、コーディネーター（徳田氏）を置いたことで異なる音楽文化の融合を図るとともに、ホストタウンの魅力を効果的に発信することができたものである。ホストタウンの取組は、行政だけでなく、地域住民や民間企業、国際交流団体等を含んだ受け皿をつくり、それぞれの得意分野を生かした対応をする事が取組を継続する上でも望まれる。

さらに、希少言語の通訳や、宗教等に対応する飲食・宿泊施設の情報等、相手国からの参加者の不安を取り除く為の体制の整備や連携が必要であることからアドバイスできる人材の情報を集約し、ホストタウンに共有する体制の整備が必要不可欠である。

（３）2020 年以降の交流の継続性に向けて

今回の調査対象プロジェクトを通じたアンケートでは、市民からは、「大変有意義だった」「異文化に触れる良い機会だった」「次回も参加したい」という回答が多く、交流の機会を設ければ積極的な市民の参画が期待できる。さらには「学校教育の現場に取り入れて欲しい」といった意見もあるなど、特に子ども達にとって有意義な活動であると認識されつつあるが、一方では自治体担当者から職員のマンパワー不足や財政面の課題、他自治体の活動について知りたいといったニーズも明らかになっている。

今後は、課題解消の為、市民がイベントに参加するだけでなく、企画・運営にも携わる取組や、民間企業の参画を促す仕組みづくり、また観光振興では周辺自治体等も含めた広域連合による取組のほかや、自治体や国際交流団体、学校、或いは民間企業等、地域の諸団体が開催する行事、イベントでも相手国を対象としてもらう取組など、地域全体を巻き込んでいく事が重要と思われる。